

御本陣風呂ハ御取ゆ共ニ

三本で相済

あさ御上御□をあふりゆちうけニ三ばいなど

御宿割前日ニ御出、御旅籠相極申候、以上

右之通ニ相違無御座候

御本陣

天保十五年

辰八月四日

長崎御目付

一遠山半左衛門様

御上壺人

御次通三十一人

一金百疋

御目錄頂戴

一石神辰之助様

脇本陣

上下五人

一森澄太郎作様

河内屋

御上下五人

一岩藤奥久様

きぬ屋

松永定作様

上下四人

一斉藤栄助様

こま屋

鈴木三次様

内 □□四人

〔手廻り〕

拾式人

式百十文

六百文

六人 四人

江戸屋

〔六十八文木銭〕

式百文□代

太田御代官

松屋

一東條七四郎様

次郎右衛門

上下三人

一湯浅為次郎様

〆四人

繼人馬覚

一御朱印人足

一賃払人足

馬

内 式拾五人

宿

助郷

右之通首尾克相勤申候

一木錢七拾文 御上老入

式人弘老入

三拾五文ツ、

一白米壹升 右同断

代百文

一木錢八百三拾文 惣人数四拾七人

但老入十七文ツ、

一白米貳分三升五合

代貳貫三百四十八文

ノ三貫三百五十三文

一木錢八拾五文 御人数五人様

一白米貳升五合 右同断

代貳百四拾八文

ノ老入御厩方まし

右者長崎御目付様四日御泊之処、太田川満水ニ付御馬老疋犬山へ

廻り、内田渡シ矢張り馬残し不相成候付、堀七郎兵衛様一ト方御残り御泊ニ相成り申候

天保十五年 細久手

辰八月六日 鶴沼

一伊東修理大夫様 御泊

御登り

一御宿入 金老入

一御旅籠上下共百七拾四文

一御札宿貳拾軒

一御本陣入 貳拾軒

一御本陣入 三拾四人

内 七人 御台所役人片旅籠朝□

一献上物 御断

一御用宿 八軒

内 帳□ 老軒 安右衛門 新家

一御宿割付 上下五人

右者御当日御嶽泊ニ而御出、御宿割被仰付候、御本陣入都而、至而嘉右衛門か成御被仰付候、以上

一御関札貳枚 西九兵衛前

東周吉脇

一御旅籠本陣弘

右之通首尾克相勤申候

天保十五年辰四月九日 細久手

一永井肥前守様 御泊 鶴沼

御宿入金壹匁

御札宿 六軒

御用意 六軒

外ニ帳場 式軒 岩井屋

万七

御本陣 人数式拾五人

御旅籠 上下共 百七拾計ツ、

但し銘々 御払

御□方百三拾四文

一御宿割様

名和次郎助様

上下三人

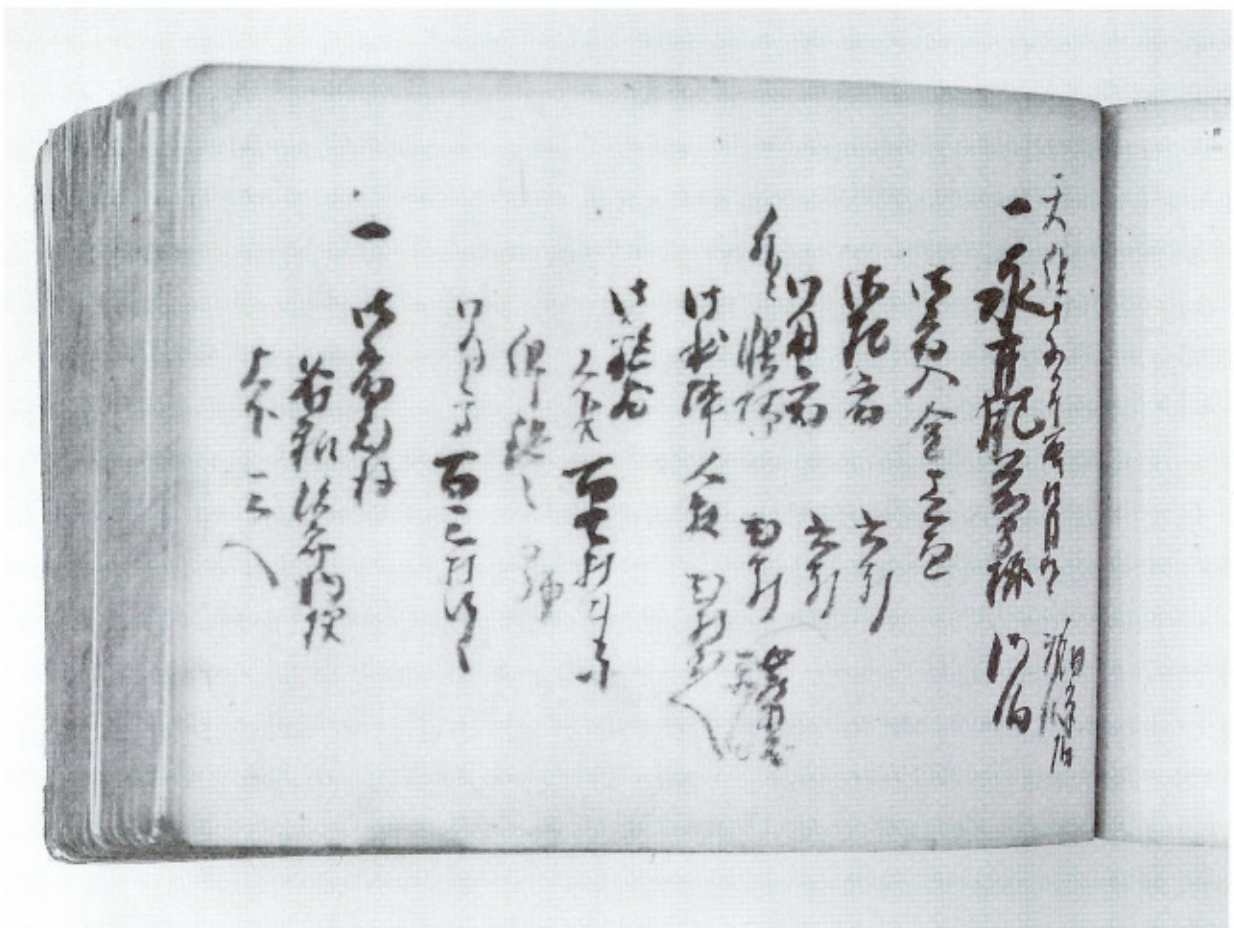
右者全前々日御昼ニ御出、御見分有之、御宿割被成候

一献上物 御断ニ付持出し不申候

尾州様

一御留守年ニ付御使者無御座候

右之通首尾克相勤申候



一永井肥前守様之儀

但シ御名々ニ御旅籠御払ニ御座候

御目見江も無御座候、以上

右之通ニ相違無御座候、以上、恐々謹言

天保十四年

七月十六日

下川辺泊

一飛驒御郡代

鶉沼 昼

豊田藤之進様

御昼 美江寺泊

上下拾六人

御手代

近野礼三郎様

本陣

上下七人

都合拾八人

右者越前所当田方為御検見として御通行之節

一片旅籠御老人ニ付七拾弍文宛 御払

一南簾一片 御宿入

右者御当日三四日前ニ御先触參候間、太田御陣屋始名古屋表江御
注進申上置候処

御吟味役

一菊池繁太郎様

岩井屋

上下

支配勘定

一岸上七左衛門様

同人

右者前夜泊込ニ御出之事

右者当宿御郡代様御昼休ニ付、御所用為御次御出張御座候処、御

手札為御取替被成本陣へ御出張無御座相濟申候

一宿内御掃除方ニ付途中并村内掃除触ハ不致候

一問屋□

本陣

出勤式人

野口定兵衛

桜井辰左衛門

右之通相成申候、御郡代様御着至而早く候間、重而□右之趣相心
得用意方前日ニ取済置候事、当日ニ而者至て悪敷候事

天保十五年辰九月廿四日

一御勘定

向山源太夫様

本陣

上下九人

御払百文

御勘定吟味役出役

一大□久清三郎様

脇本陣

天保五年辰五月十一日

御嶽泊

上下式人

右同断

一彦根中将様 御昼休

鶴沼昼

御普請役

御登り

河渡泊

一森 規太夫様

河内や

上下三人

右同断

銀式枚

御宿入

一□掛方

人数御旅籠分式拾五人

御本陣入

山田権右衛門様

岩井屋

御旅籠 忝人ニ付八拾四文ツ、払

上下三人

御勘定奉行同心

一御下宿

式拾壹軒

代旅籠右同断

宮嶋小十郎様方

是ハ銘々御払被成候

一古川長三郎様 甚之右衛門

御本陣入

田村源之助様

一膳飯 五拾人計

右御衆中都而木錢米代共御払無御座候

意致置候事

右者加子母山より御材木御伐出ニ御出御帰之節、当宿御昼小牧御

泊込御出之節、勿論御宿ハ御飯計用意致、其外ハ名古屋より□□

附参り、御上より御料理御仕出ニ御座候

右者前夜御泊込ニ御出御宿割被成候

一御宿屋料 上下式人

一小牧宿迄

兩人

一御関札式枚

東 小橋より少東ノ方

見送之者

西 駒吉少西方

右之通当宿御昼休小牧宿御泊御出被成候

右者前々日御関札掛り御役人衆御兩人御泊込ニ御出御泊有之候

一献上物御断ニ付出し不申候
一御台所御役人衆、当日早朝御出被成候

御定分

一人足式拾五人

馬式拾五疋

外ニ

御定分

一人足

馬

右之通首尾克相勤申候、重而御昼休被仰付候間、前日ニ不残用意
致候事、当日御着至而早々候間、為心得書記置申候

天保五年十月十一日

大湫

一彦根中将様 御泊

鶴沼

御女中

上下 三拾人

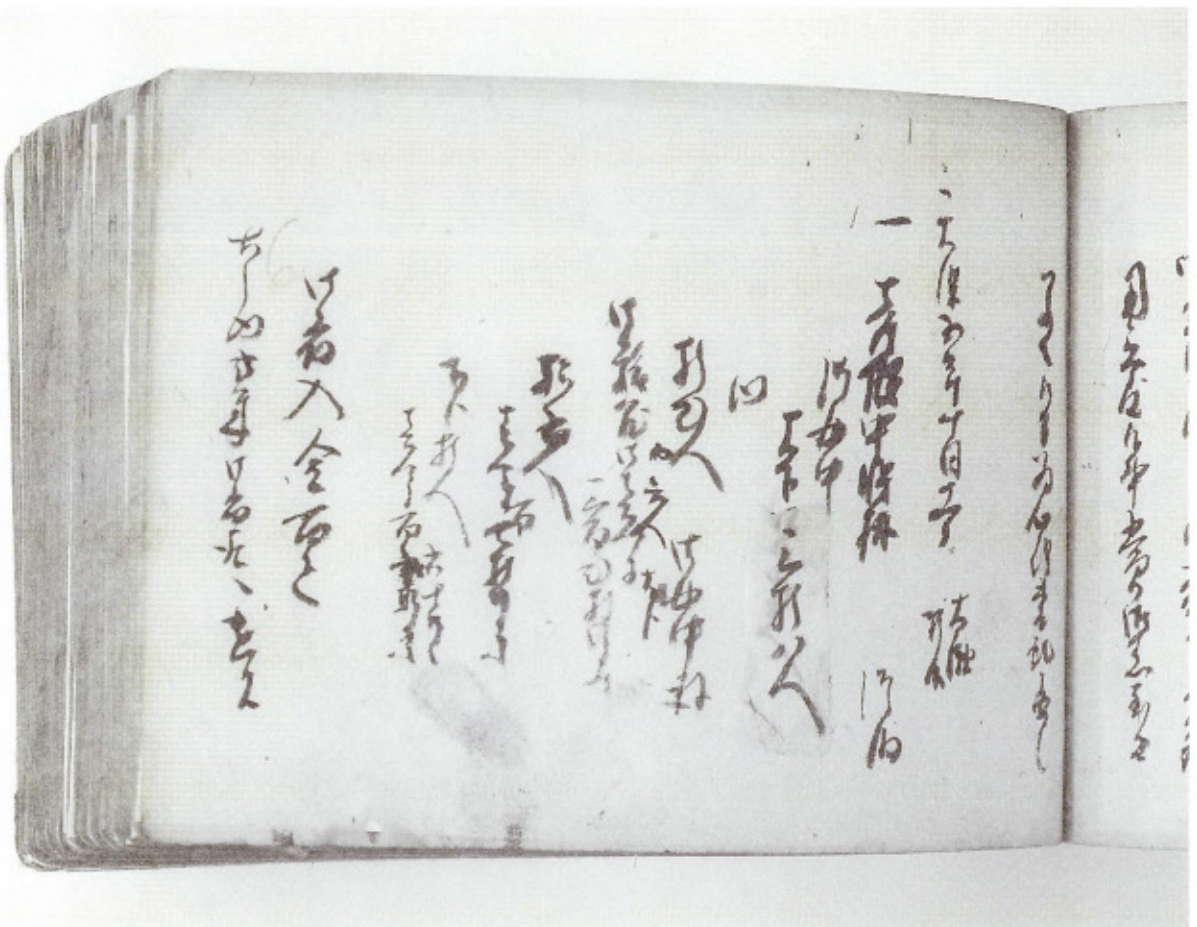
内

拾貳人 御女中様

内 六人 百文

御旅籠御支度に 三百貳拾四文ツ、

拾六人 壹人ニ付百七拾四文ツ、



下分拾人 老人ニ付百六十四文

御宿入金百疋

右之内式朱御宿取へ遣ス

一日用宿 四軒

一上御湯殿

一新湯殿 老本

一下風呂 老本

右者当日御宿取老人御出被仰付候

天保五年辰十月 大湫

一水戸様御内 御泊 鶴沼

御登り

結城寅松様

御上老人 御旅籠屋三匁

御賄屋廿七人

御旅籠 飛州屋

御下宿 式軒

一金百疋 御宿入

内六百文 □□

一御取湯 老本

外ニ式本 下通

右者御上京之節御泊被成候

天保十五年辰十一月七日

一御勘定 御昼

飯田又左衛門様 本陣

上下七人

御普請役

大嶋東一郎様

古部元次郎様

渡部宇一郎様

上下六人

御払 木錢米代

御朱印

一人足式人

馬 式疋

内老疋人足式人代ル

外ニ 人足三人 無賃

合 人足七人

馬老疋

太田宿

鶴沼屋

小牧泊

脇本陣

一御用書物長持壹棹

此村人

右者御勘定様御触通之分

御証文

一馬三疋

外ニ たれ駕三挺

此人足六人

先例之通無御座候

右者御普請役様三方分

右者五街道筋御場所往還通道橋附置通再見分并仕立方等見廻り、
且御料所私領所宿村往還並杯見分取調為御用御通行之節、宿方并
御領所、私領所往還並松目細御取調ニ而、宿村共委細取調書上申
候

一太田宿御内迄野口定兵衛、坂井銀右衛門御宿江罷出候、当宿よ
り新加納村迄問屋年寄指添御見廻り相勤候、御用濟之上太田御
陣屋へ御達申上事

弘化二年

鶴沼

三月廿三日

大久手地

一竹中図書助様

下り 御泊

一金貳百疋 御宿入

御本陣入

御上老入

御頭 四人

□□□ 式人

見□ 式人

御脇持 八人

手廻り 六人

小者 六人

荷雇 三人

御馬 壹疋

惣人数 三拾壹人

下宿

一札宿三軒

又右衛門

茗荷や

次郎藏

御旅籠老入 百七十式文弘

大弘ニ御座候

一御台所立不申仕出ニ御座候

本陣より

一中湯殿 壹本

一庭 壹本

右者当三月廿三日御泊リニ候処、御宿割様御当日漸々七ツ時頃御

着被成、御宿割被仰付候

弘化二年四月朔日

一芸州

大湫 鶴沼

松尾忠次郎様

御泊

御登り

御鉄砲頭

御上 壱人

四百文

下 拾壱人

百六拾弍文ツ、

御馬 壱疋

御宿入

右之通御宿相勤申候

弘化二年

巳四月五日

登り

一松平主殿頭様

御泊

高七万石

細久手 泊

鶴沼 泊

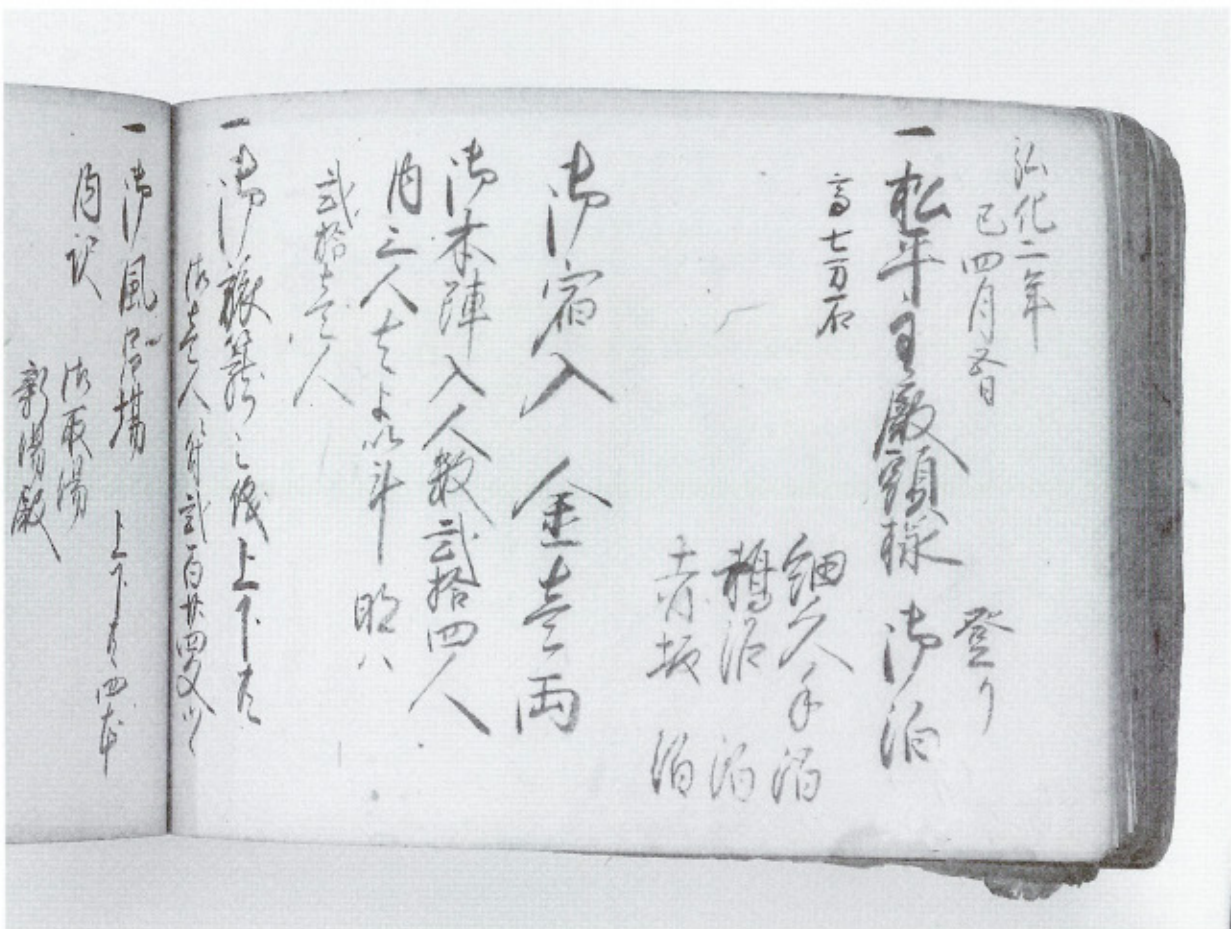
赤坂 泊

御宿入

金壱両

御本陣入人数 弍拾四人

内三人者よい計、明ハ弍拾壱人



一御旅籠之儀上下共

御老人ニ付式百廿四文ツ、

一御風呂場 上下共四本

内訳 御取場

新湯殿

庭下ニ式本

一御けん上物 不通候（意）

一御札宿 式拾式軒

一油紙宿 式拾軒

一御関札式枚 西九兵衛

東小橋向

前日ニ御宿割様御越被成候、関札も御持参ニ而御渡し可被下候

一御目見江無し

一御旅籠代者御名々ニ御払被下候

一御宿割様之儀上下共四人御越被成候

一太田方 御宿 山田甚之右衛門

右者人馬裁許として御出張有之候

弘化二年巳五月三日

一永井肥前守様 御下り

御小休昼 加納立

鶴沼昼

御嶽泊

御宿入 金百疋

御旅籠支度

拾三人 但シ御老人ニ付八拾文ツ、

膳めしが拾四人分

内拾人者六尺衆

四人者分当

ノ拾四人

御目見江無御座候

台所茂立申候并茶之間茂立申候

付而ハ殿様御着之儀ハ四ツ時ニ有之候間、成たけ手廻しよく可致事

右之通ニ而相勤申候、以上

五月三日 桜井吉兵衛

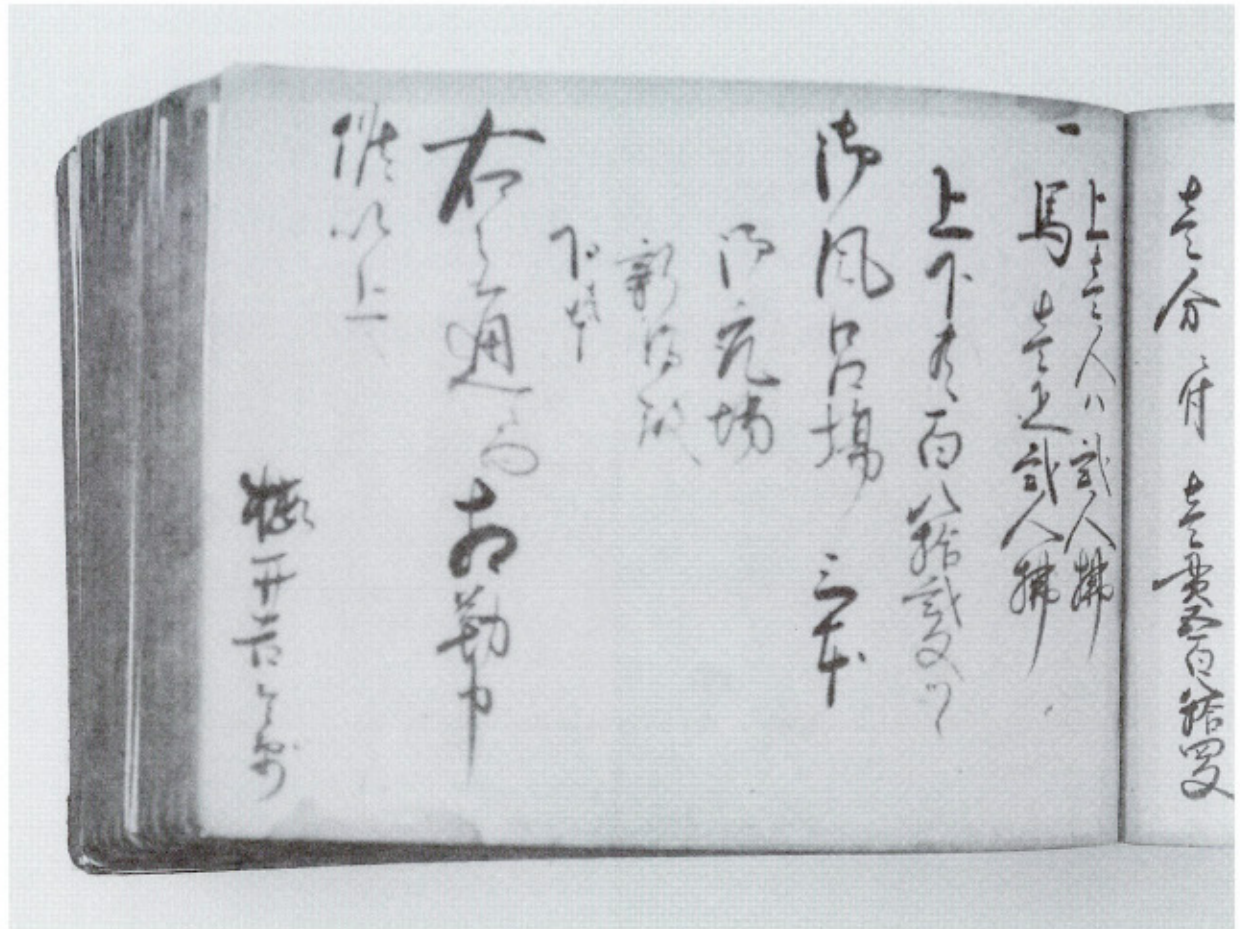
弘化二巳年五月三日

一越州様御内 御泊

坂井外記様

此人之役儀者御用人、猶々御同勢七拾三人

内 三拾人 本陣入



跡四拾三人ハ下宿三軒

引馬 壹疋 本陣入

分当 式人

金百疋 御まく料

但シ宿人なし

一御旅籠之儀ハ御老人ニ付百八拾式文ツ、
兩替之儀ハ 壹分ニ付壹貫五百八拾四文

上老人ハ式人私

一馬老疋式人私

上下共百八拾式文ツ、

御風呂場 二本

御取湯

新湯殿

下 壹本

右之通ニ而相勤申候、以上

桜井吉兵衛

弘化二年五月四日

一芸州様御女中

御部屋住

上下式拾七人

内 拾人上分

拾五人中通分

式人下通分

上旅籠式百三拾式文

中同 式百拾六文

下同 百六拾四文

風呂場三本

御取湯壺本

新湯殿壺本

庭風呂壺本

かや四ツ借用仕候

あさハゆを八ツ時ニをきてハかし、ずい分ゆをたて候

引戸駕籠拾丁

たれ駕籠七丁

馬荷四駄

油紙宿四軒 河内や しまや

右之通ニ御座候、以上

ふじや 江戸や

弘化二巳年五月五日 登り

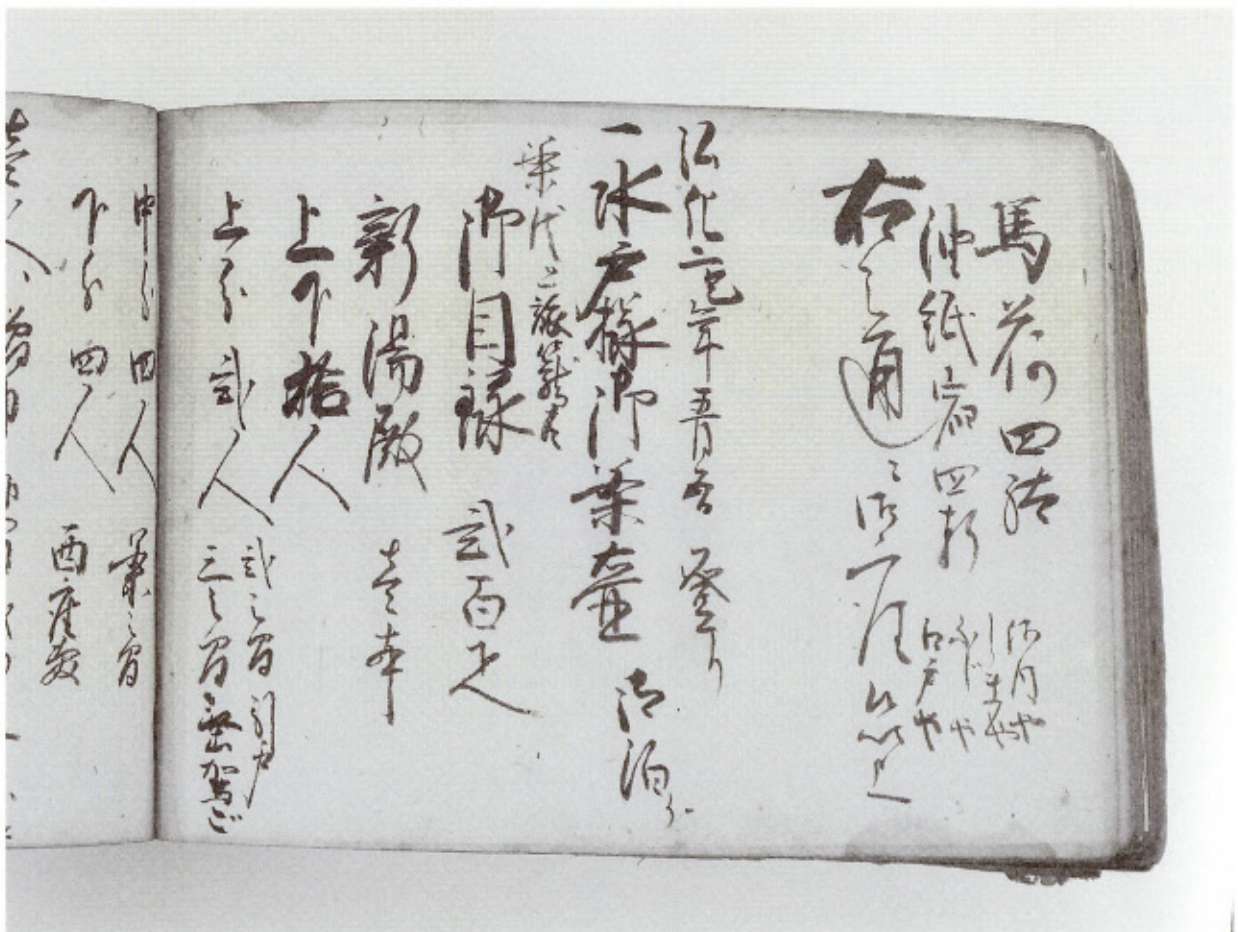
一水戸様御茶壺 御泊り

茶代上旅籠共

御目録 式百疋

新湯殿 壺本

上下拾人



上分貳人 式之間引戸、三之間垂駕こ

中分四人 茶之間

下分四人 西座敷

老人ハ増申候間、式百疋之外百五拾文向より被仰付候、難ありがたく有戴

頂仕候

右御着之上まきを献上仕候、但式者

右之通ニ而相勤申候、以上

弘化二巳年五月六日

一織田安芸守様 登り

高老万石 御嶽宿泊

宿入 金貳朱 鵜沼宿小休御昼

美江寺泊

御旅籠之分 但シ老人付百文ツ、

拾七人様分

上老人様分

代金貳朱

六尺衆 八人

ぼう頭無し

御宿割様ハ前日ニ御出、昼支度ニ而越候、以上

但シ宿割之人 貳人

膳めし之分ハ老人も無御座候

弘化二巳年五月七日

一黒田甲斐守様 上り

五万石

御嶽宿泊

鵜沼宿小休屋

加納宿泊

金百疋 御宿入

旅籠之分拾七人

但老人ニ付百文ツ、

膳めし三分三拾人

内六尺衆八人

御召替六尺四人

ぼう頭貳人

ノ拾四人

外拾六人ツ、

宿割ハ前日ニ御出被成候、宿割様ニ候之事をたツねてもし知れず候、
台所方着之上たツねると相イハかり申候

通之風呂老本立申候、以上

御目見江無御座候、以上

五月七日

一因州御家老 ○(印影、判読不可)

和田豊前様 御泊

御本陣入

上拾人

中五人

下貳人

御用三人

ノ廿人

御宿入貳百疋

御台所立申候

炭代其外薪代と御払ニ御座候

下宿六軒

御用宿三軒

旅籠勘定

四貫五百三拾貳文 上拾七人

老人貳百六十四文ツ、

貳貫百文 中九人

老人貳百三拾貳文

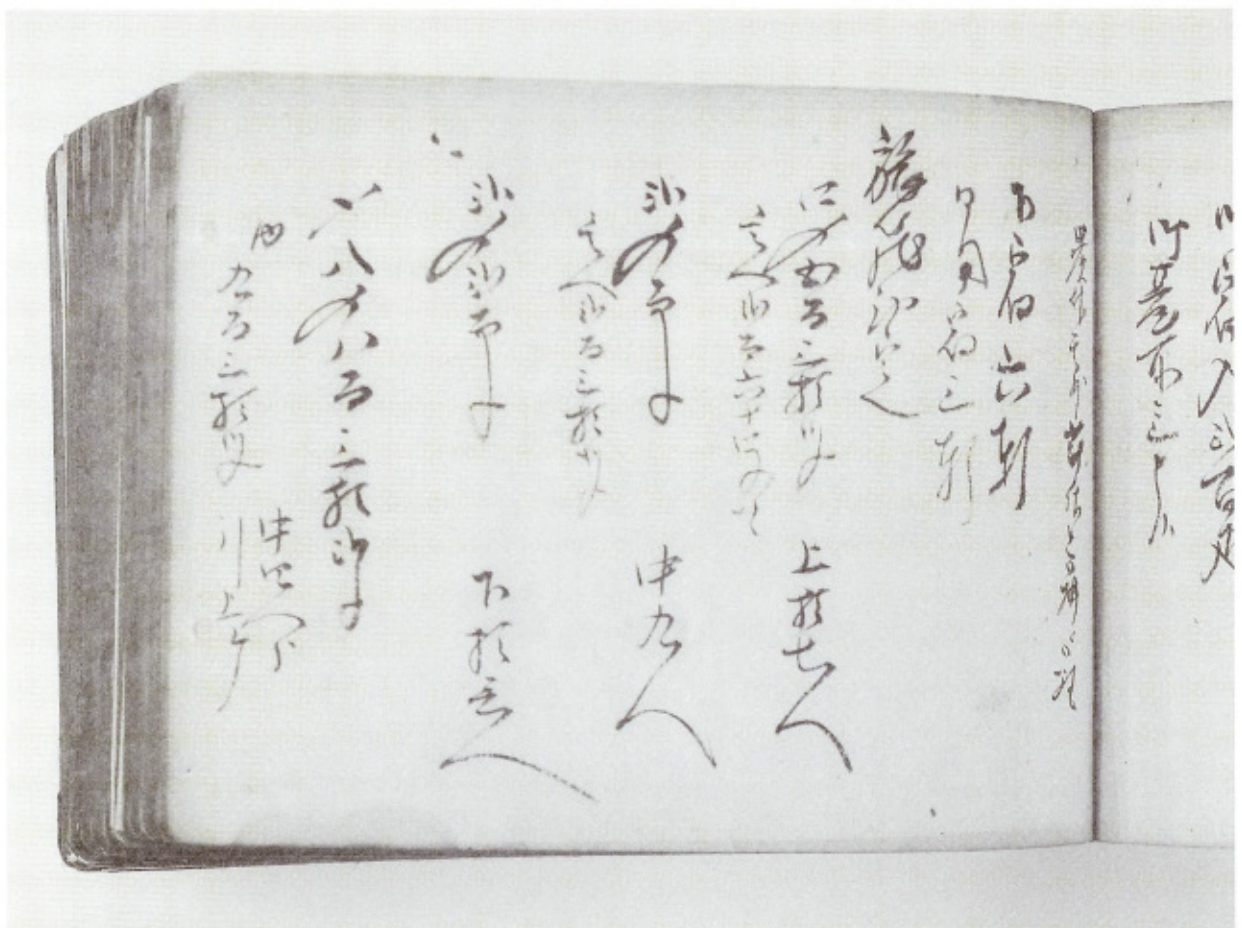
貳貫貳百文 下拾老人

ノ八貫八百三拾貳文

内 九百三拾貳文

中四人分引上ケ

引而 七貫九百文



一上拾人 貳貫貳百八文 本陣

老人貳百廿文ツ、ニならし

中五人 壹貫八十文

老人貳百十六文ツ、ニならし

下貳人 四百文

老人貳百文ツ、

ノ三貫六百八十八文

一上老人 貳百廿文 河内屋

中式人 四百三拾貳文

下老人 貳百文

ノ八百五十貳文

一上三人 六百六十文 平右衛門

下老人 貳百文

ノ八百六十文

一上三人 六百六十文 久右衛門

一下五人 壹貫文 定右衛門

一中間貳人 四百三十貳文 平右衛門

下貳人 四百文

ノ八百三十貳文

右之通相勤申候、宿割之節へ中四人分さし上ヶ申候

弘化二年巳五月十四日

大坂町

細久手泊

御奉行 貳万石

鶴沼宿ハ屋

一永并能登守様

御上り

加納宿泊

御宿入 金貳朱

御旅籠之分 廿七人様 老人ニ付八拾貳文ツ、

御上様御老人 但貳人払

六尺衆八人 六尺ハ拾貳文ツ、払申候

ぼう頭老人

人数ノ三拾八人

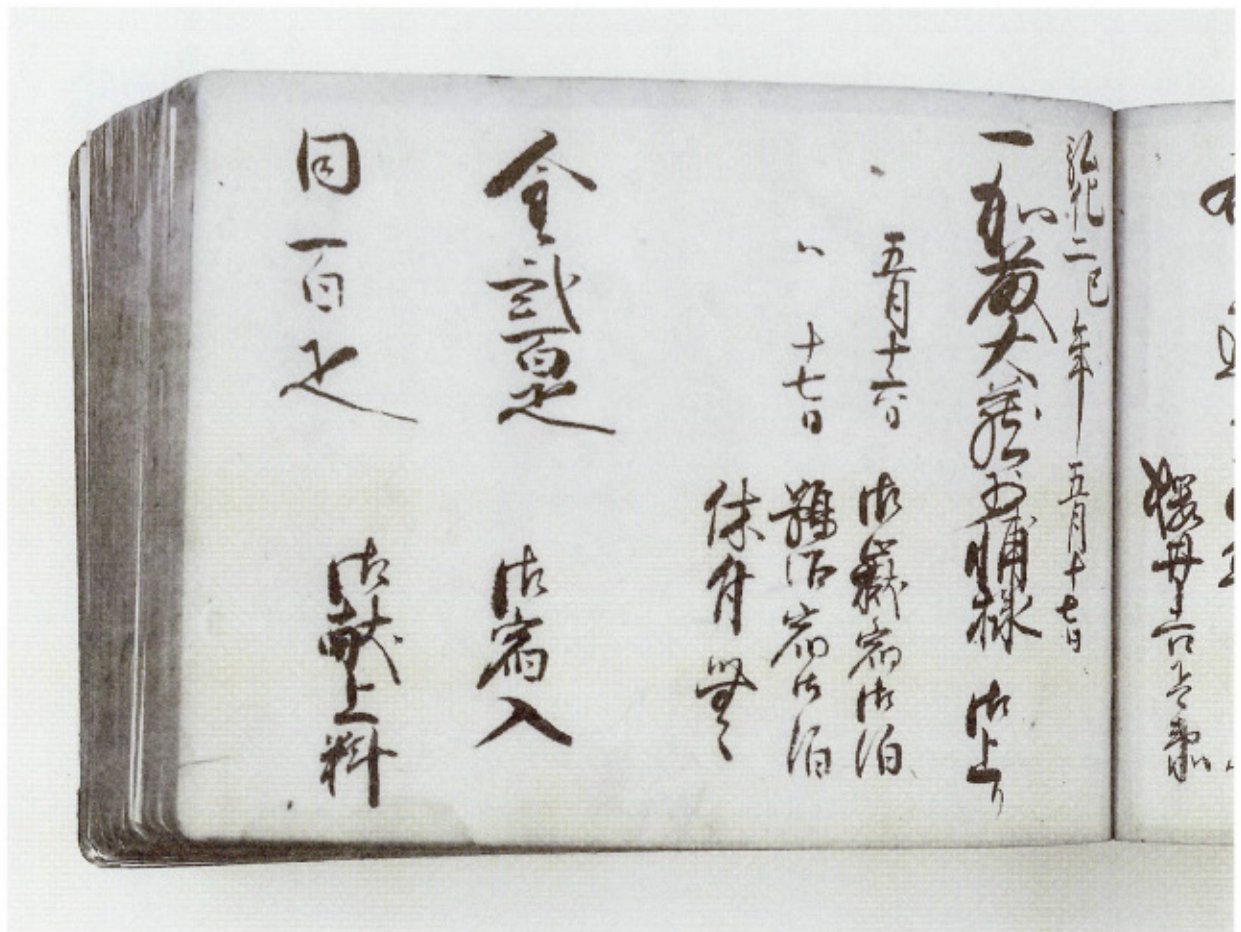
御本陣目見江無御座候

周左衛門面迄御迎ニ出申候、御取次有之候、以上

右之通ニ而相勤申候、以上

桜井吉兵衛

弘化二巳年五月十七日



一 加藤大蔵少輔様 御上り

元禄二年 五月十六日

一 加藤大蔵少輔様 御上り

五月十六日

御嶽宿御泊

五月十七日

鶴沼宿御泊

休付無

金貳百疋

御宿入

同百疋

御献上料

一 加藤大蔵少輔様 御上り

五月十六日 御嶽宿御泊

同 十七日 鶴沼宿御泊

休付無

金貳百疋 御宿入

同百疋 御献上料

御本陣入 式拾五人

内 上九人

中拾六人

御人足三人

陪者八人

御本陣入

惣ノ三拾六人

上分 百八拾文ツ、

中分 百七拾式文ツ、

風呂場之覚

御取湯 壺

新湯殿 壺

庭ニ式本

ノ四本

札宿 六軒

油紙宿四軒

下宿帳之上帳いらす

御宿割様当日ニ御出被成候、下宿ニ而四番之宿江御さがり被成候

但宿割りハ式人

右御目見江無御座候

御道具ハ少々ばかりニ御座候、しかしといえども雖然しと周左衛門面迄迎ニ御越シ被成候

右之通ニ御座候、以上

桜井吉兵衛

弘化二年巳六月廿七日

長崎御目付

脇本陣

一井戸大内蔵様

御上老人 但木錢ハ式人払

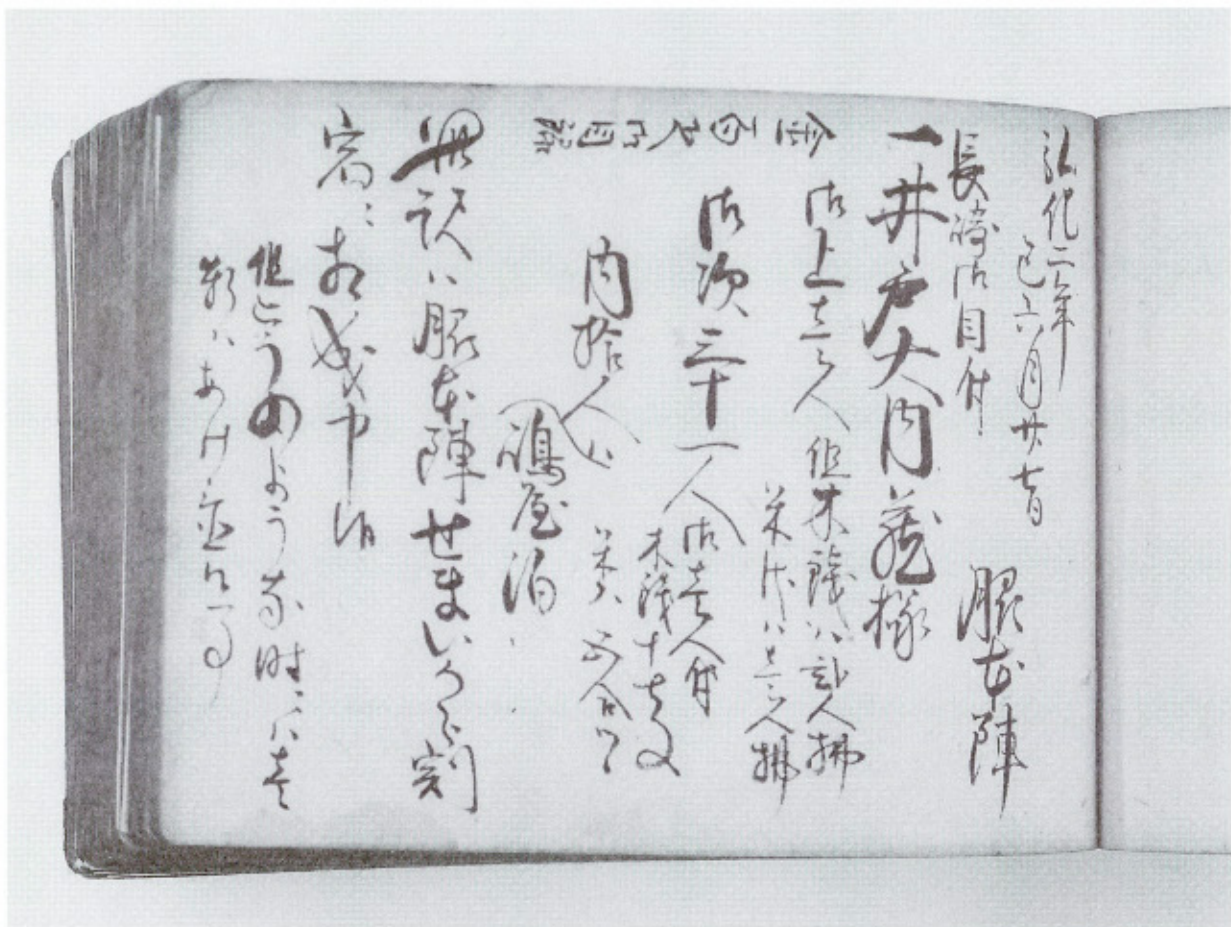
米代ハ老人払

書入 御次三十一人 御老人ニ付木錢十七文、米ハ五合ツ、

内拾人ハ嶋屋泊

此訳ハ脇本陣せまいから割宿ニ相成申候

但ここのような時ニハ老軒ハあけ置候事



〔御小人〕
一金百足御目録〕

脇本陣下宿

一拾耆人 立花屋

但此分帳ニ御座候

一七人 丞びすや

但六尺

一馬耆足 たばこや

三人

ノ宿五軒此分ハ脇本陣ニ而大扨ニ御座候、あとハ御め、ニ御扨被

成候以上

御徒目付 河内屋

一鈴木登作様

御上下五人

御徒目付 絹屋

一佐藤久左衛門様

御上下五人

御小人目付 松屋

一橋本鉄四郎様

和田伝兵衛様

御上下四人

御小人御目付 茗荷や

一渡辺伝太郎様

長坂善次郎様

御上下四人

右ニ木銭米代割渡し分覚

覚

一銭九百五拾五文 御上老人様分三拾四文

次五拾式人分十七文ツ、

一白米式斗六升五合 御老人分米五合ツ、

此銭式貫六百四拾八文

一銭三拾四文 馬耆足

一白米壹升 同断

此銭百文 百文ニ付耆升ツ、

ノ三貫七百四十式文

右之通上より私シ請取候、下宿江其之割渡し之覚

上老入八但木錢八式人私

米代八老入私

下式拾一人

但此米代老貫百文

木錢四百七文

脇本陣

此ハ脇本陣之割宿之方

一下通拾人

木錢百七拾四文

米代 五百文

烏屋

一下通拾老入

木錢百九十一文

米代五百四拾八文

立花屋

一馬老正

式人私

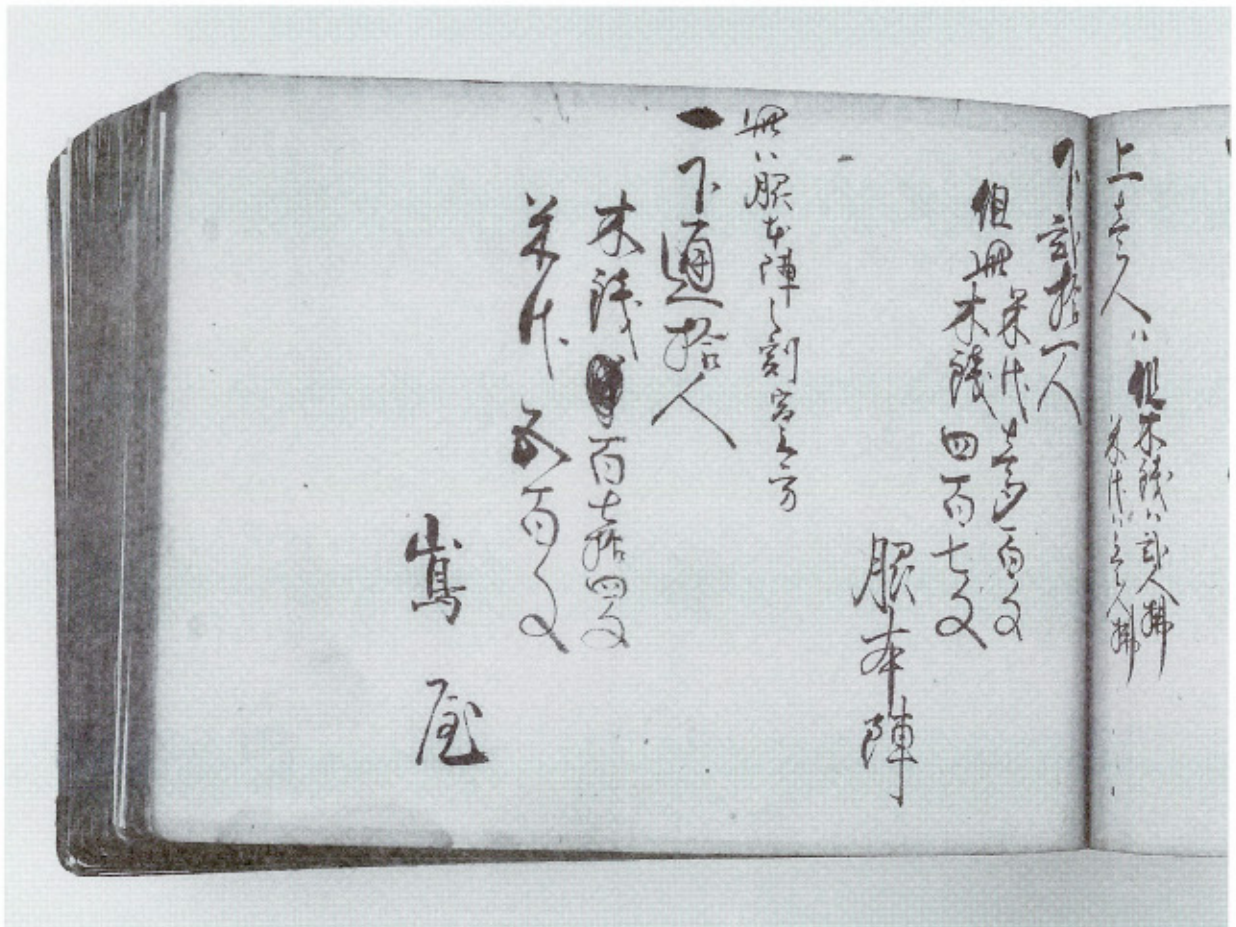
人三人

五人分

木錢八十五文

米代式百四拾八文

たはこや



但六尺

一七人

悉びすや

木錢百廿三文

米代三百四拾八文

太田御陣屋御飛車

一東條七四郎様

上下三人

岩井や

御役人衆老人

一竹中佐兵衛様

如此ニ御座候

(図有)

右者御所用として御出ニ付如此御案内申上候、右絵図面之通使者之間へ御代官さま御案内仕、右席之殿様御出張之御用済之上、次之間迄様御見送り被成候、其場にて直ニ御□相済申候

一御代官様御所用如此相済申候

一御手代衆様迄例之通御じゆこん合ひ申出候処、何れも相答候ハ御出なく候、御目ニ懸り候、御出無之候ハ、かたじけなく 忝 御談申候趣申答候、手札之義ハ出し不申候由、何れも被申聞候、右御手札



無之候半而ハ是迄之通振ニ無之候間、しゆこん合ひ取計かね申候由し申達候得共、一切取上ケ不申手札出シ不申候、仍而手札なしニそ計置申候、重而ハ御逢ひ有之候様ニ取計可申事

外ニ 御馬壹疋
别当三人
本陣入 〆廿人

右相勤申候、以上

一誠ニ錢相場之義ニ付いり組申、此訳ハ金貳朱ニ付始メハ八百文と申上候処、丸一や之銀右衛門がそれでハ中々行届不申候

一上貳人 河内や
下貳人

八月廿日通り

奥公家

一壹番六人 鳶や
同四百四拾八文渡し

一畠山上総介様 御登り

一貳番五人 立花屋

御茶代三百文 太田泊り・鶴沼小休

同三百七拾貳文渡し

右之通り大通廻ニ而相勤申候、太田御出立至而早キ事ニ候

一三番十一人 蛭子や
同八百廿四文渡し

弘化二年十月十一日昼

飛田御んく代

一小野朝右衛門様

御目錄百疋

但シ 御上分壹人ニ付 百文ツ、
御下分壹人ニ付 七拾貳文ツ、

献上物御断り

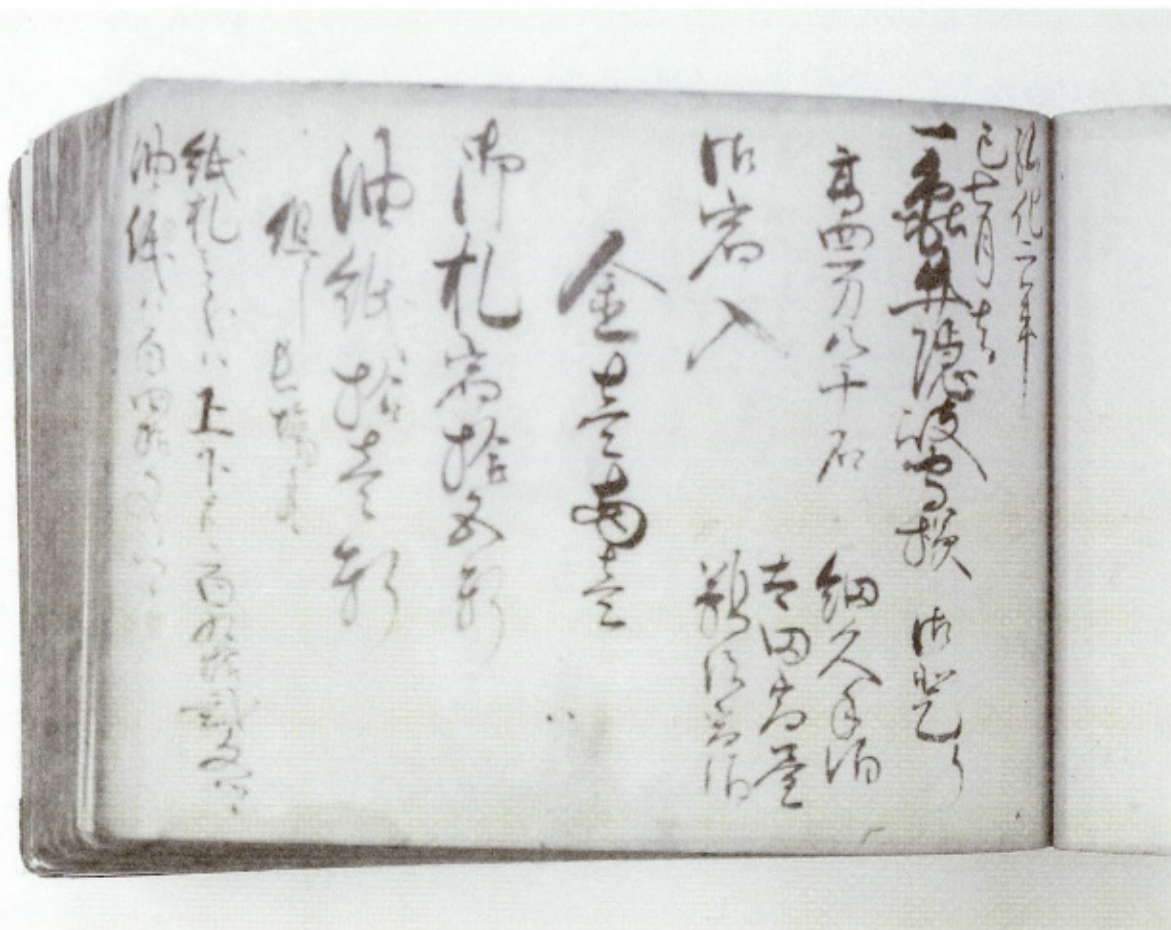
本陣人数

右ハ笠松泊ニ而鶴沼宿御昼支度ニ被仰付候

御上壹人様

上下拾六人様

弘化二年巳七月七日



一亀井隠岐守様

御登り

高四万八千石

細久手泊

太田宿昼

御宿入 金壺両壺

鶴沼宿泊

御札宿拾五軒

油紙 拾壺軒

但し長場共

紙札之分ハ上下共百九拾式文ツ、油紙ハ百四拾文ツ、

御宿入

御本陣入 人数拾五人

台所四人ハ片旅籠

金壺両壺

御関札 式枚

御懸札 壹枚

此ハ紙札

御宿割

右ハ御宿割が関札役人之処を持込ニ御座候

但前日ニ御出被下候

六人 上三人

下三人

風呂場 取湯と新湯殿、庭壺本

御出立前ニ御目見江被仰付候

三本

御立ハ七ツ半時之御立

弘化二年巳九月廿九日 大久手

一戸田采女正様 御泊 鵜沼宿

御宿入 壹両貳分

御本陣人数 廿三人

外三人

長場分うちこみ

本陣人数ノ廿六人

札宿 三拾四軒

油紙宿 拾三軒

御旅籠之覚

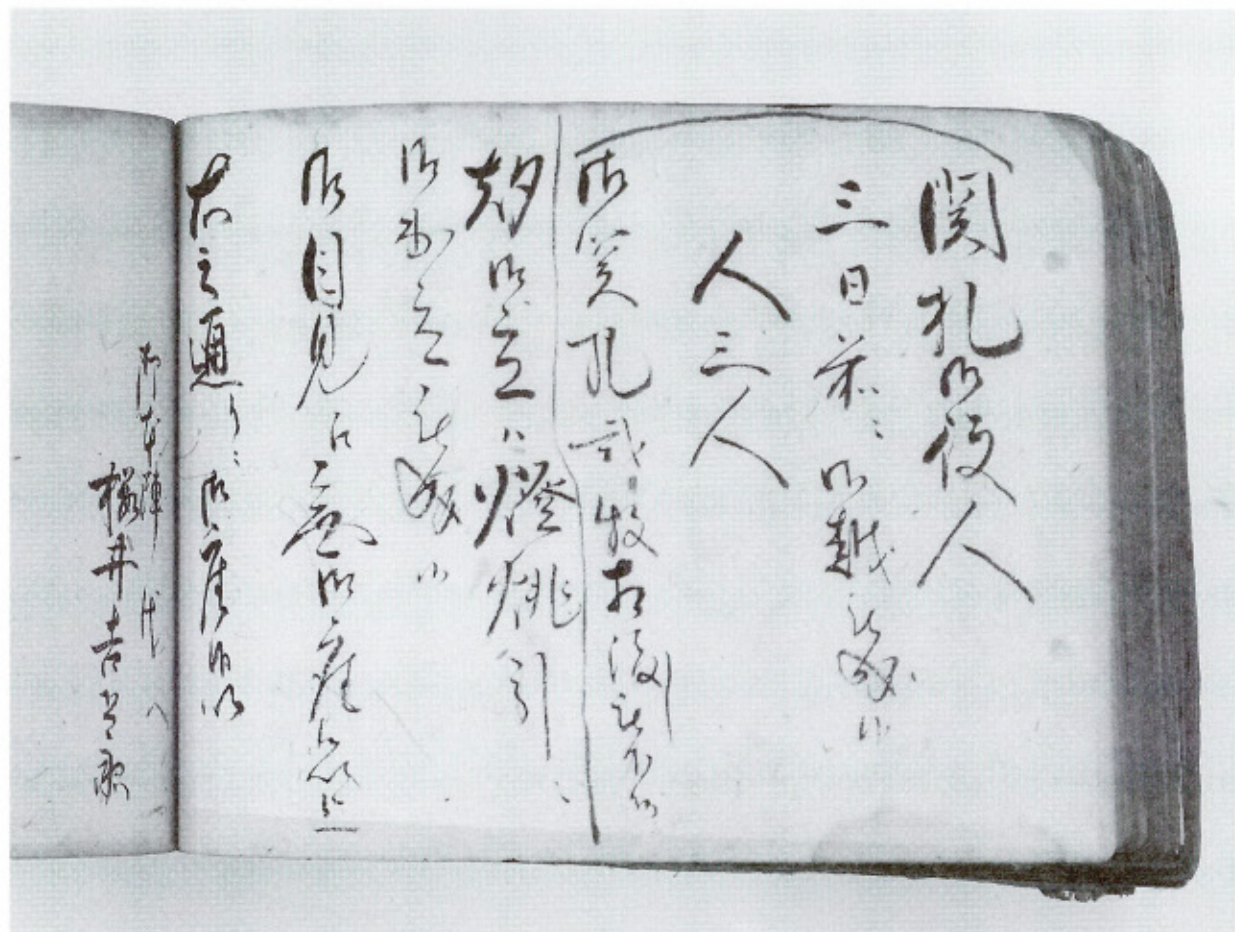
耆人ニ付 上分 貳百廿四文ツ、

同 下分 貳百廿文ツ、

同 日雇宿之分 百六拾文

宿割様前日をそく御越し被成候

人九人 但上下共



関札御役人 三日前ニ御越被成候
人三人

御関札式枚相渡し被下候

朝御立ハ燈挑引ニ御出立被成候

御目見江無御座候、以上

右之通りニ御座候、以上

御本陣代 桜井吉兵衛

弘化二巳年十月十二日

御伝奏

一徳大寺大納言様 御上り 太田泊

御小休 加納休

御継立寄高 樽井泊

人足九百五拾八人

馬 卅五疋

会所備方左ニ印

一御駕籠人足宿 藤藏宅

困口役人

帳付式人

加役四人

助郷立合式人
外裁許人

一長持掛宿 野口屋

帳付式人 弥兵衛宅

加役六人

助郷立合式人

外ニ裁許人共

一両掛宿 半兵衛宅

帳付式人

加役三人

助郷立合式人

外 裁許人

一宿駕籠 荻屋

馬付

帳付四人

加役四人

助郷立合式人

外ニ裁許人

一手替宿 三国屋

帳付式人

馬指三人

助郷立合式人

裁許人

一宿内火要慎見廻り人足四人

内 昼式人

夜式人 内野より

一宿駕籠賃渡方

宿より壺人

助合より壺人

一太田宿飯掛見壺人

一御公家様御内御先見 壺人

一勝山壺里先 壺人

一宿口御迎上下式人

一御普請役御迎壺人

一帯持式人 内 巾壺人

目貝持式人 南町三人

一先払上下六人

一先払羽織袴拾式人

一長持宰領拾六人

一太田宿御泊伺ひ式人

一加納宿へ見送式人

一御普請役見送壺人

一大会所

坂井伝吉・栄助

横山周平

桜井吉兵衛

野口貞兵衛

坂井銀右衛門

旧吾

帳付壺人

筆役式人

馬指式人

加役四人

助合立合壺人 丈助

梅屋佐兵衛宅

坂井伝吉

横山周平

米次郎

帳付壺人

筆役式人

馬指式人

加役式人

荷付拾人
助合立合老人
裁許人

- 一 駕籠役五人
- 一 新加納行駕留老人
- 一 太田行駕役老人

十月十一日

飛州高山御郡代

一 小野朝右衛門様

加納宿泊り

鶴沼宿屋

御茶代 金百疋

御人数御上下式拾式人

内式人者地役人

御老人御支度代 七拾式文ツ、

右之通り無故障御勤申候

一加納行駕役老人

一御用宿 御本陣

一同 きぬや

一御普請役様宿 松屋

一太田方宿 いわるや



一笠松方宿 委ひすや

一先払宿 岩井屋物置

一同支配人三人

一用意役老人

徳大寺大納言様人馬御触等、其外左ニ記之

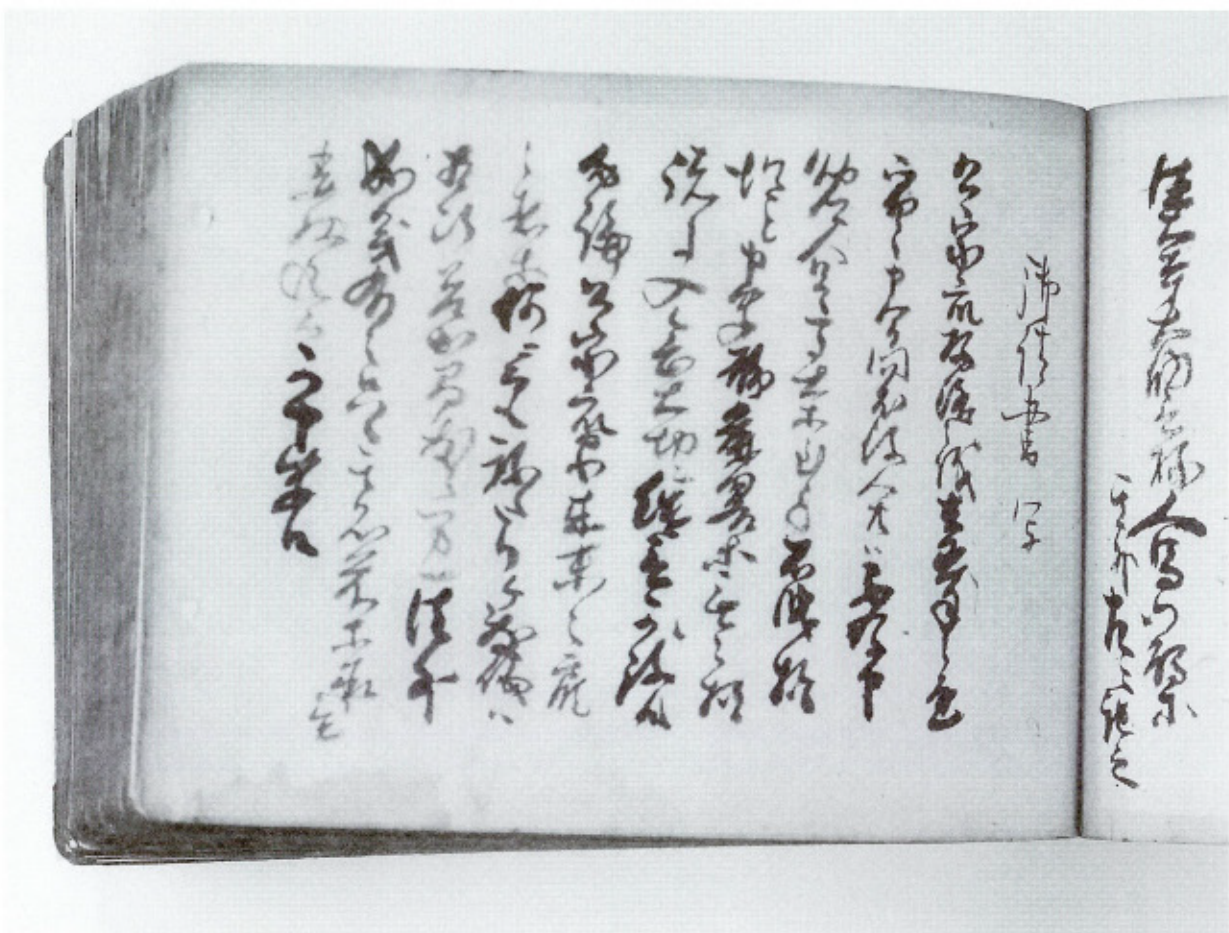
御請書 写

公家衆帰路之儀去丑年之通宿々申合、問屋役人共ハ不及申、助郷人足馬士等至迄不洩様、慥ニ申聞聊麁略等無之様、諸事入念大切ニ繼立可致候、勿論公家衆家来末々雇之者等何ニ而もねたりヶ敷儀ハ相断、差出間敷候、万一法外成義有之候ハ、其名前等承置、委細追而可申聞候

一御朱印御証文之外無賃之人馬差出間敷、宿々申合繼立之人馬遣方等取調、追而可申聞候

一川越渡船之場所宿村申合、川役人共一同罷出前々之通少も滞無之様大切ニ相心得、川越人足共なとも不残様可申渡置候

一右之外自分共より時々御用状差出候間、刻限付□様相記候、早々記置候様可致候、延着ニ相成候而ハ御用向差加候間、宿々入念無遅滞様可申合候



一 公家衆先触之義、宿々入念写取不□昼夜刻限ヲ以少茂無遲滯繼贈可申候

差出可申

一 右之助郷村高并高百石ニ付人足何人、馬何疋、触当之儀追而可申聞候、勿論格別臨時之触当不致様宿々申合、入念取計通し候

右被仰渡之趣一同承知奉□□候、仍而御請書差上候、如件

何之誰御代官所

弘化式巳

中山道何宿

十月

役人 惣名前

川役 同断

一 出火其外異変之義ハ不寄何事聊之義たりとも差懸り相変り候義ハ不捨置早速我等通行先へ可申出候

道中筋御取締

御役人中様

一 公家衆泊ニ相成候宿方にてハ、□□□何之上刻下刻之宿入參着泊と申義、道中奉行衆へ注進申立候刻限ハ、聊不違様右注進状写を以此方へも早々可申聞候

一 馬三疋從江戸近江迄上下并於彼地御用中幾度も可出之、是ハ御用ニ付御定、跡役石原助八郎、同代り横山信太郎、国嶋善五郎罷越ニ付、□相渡スもの也

一 此申渡請取書之義、宿役人名前不殘様不洩相記し、若御用向出府又ハ病氣ニ候ハ、其段断書相記可申候、宿方ニより心違ニ

弘化式巳八月

佐藤印

而当番非番と唱ひ而、通行賄方之砌茂不罷出義も有之候趣、

粗相聞候、甚以不心得之義ニ有之、御改正中ニも有之候間、

御証文 馬三疋之内

別而諸事心付可申候

一 馬式疋

一 宿送御用状ハ勿論、宿方より差遣候心得触江も不寄何事刻限付

内 壹疋人足式人ニ代り

帳仕立相添差函宿可致候、就中公家衆御休泊付板橋宿より差

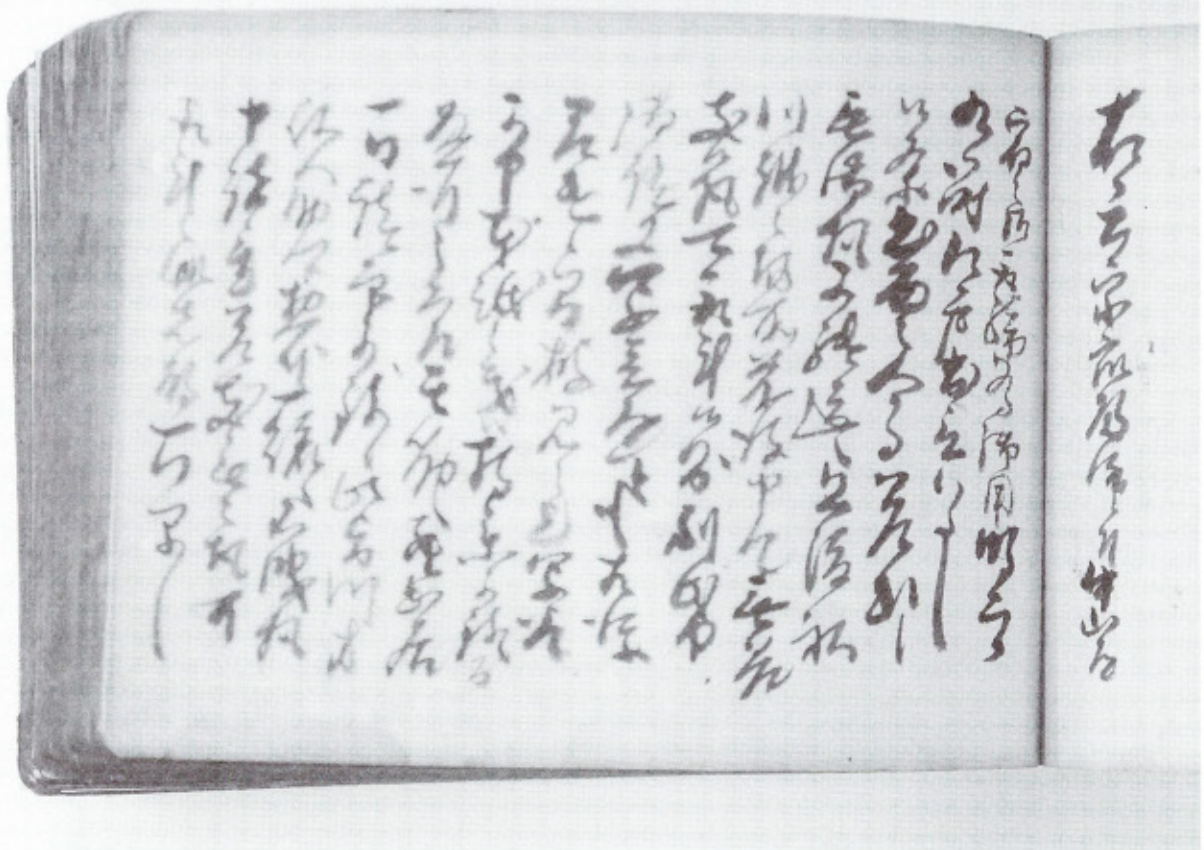
外人足八人

立候義ハ、一体先々宿々手極メ又ハ諸家除合之為ニ茂相成候間、

此訳

先触之内休泊之義ハ何れ書拔手早く相廻し候様、右刻附紙相添

六人 引戸駕籠式挺



四人 兩掛式荷
但 場所内貨錢除之

右者公家衆歸路ニ付中山道宿々御取締為御用、明二日九ツ時、江戸出立いたし候条書面之人馬差出し無滞様に継送之、且渡船川越候場所前後申上候、無差支候様可取計候、則別紙御証文写巻通とも相添差遣候間、披見之上写取可申、本紙之義ハ持參可致候間、通行之節其筋へ罷出居一日程ニ印可致候、此旨川方役人助郷惣代一統へ不洩様申談置、差支無之様可取計候段先触、一同早々順達於大津宿着之上可相廻候、以上

巳 御普請役代

十月十日

国嶋善五郎
横山信太郎

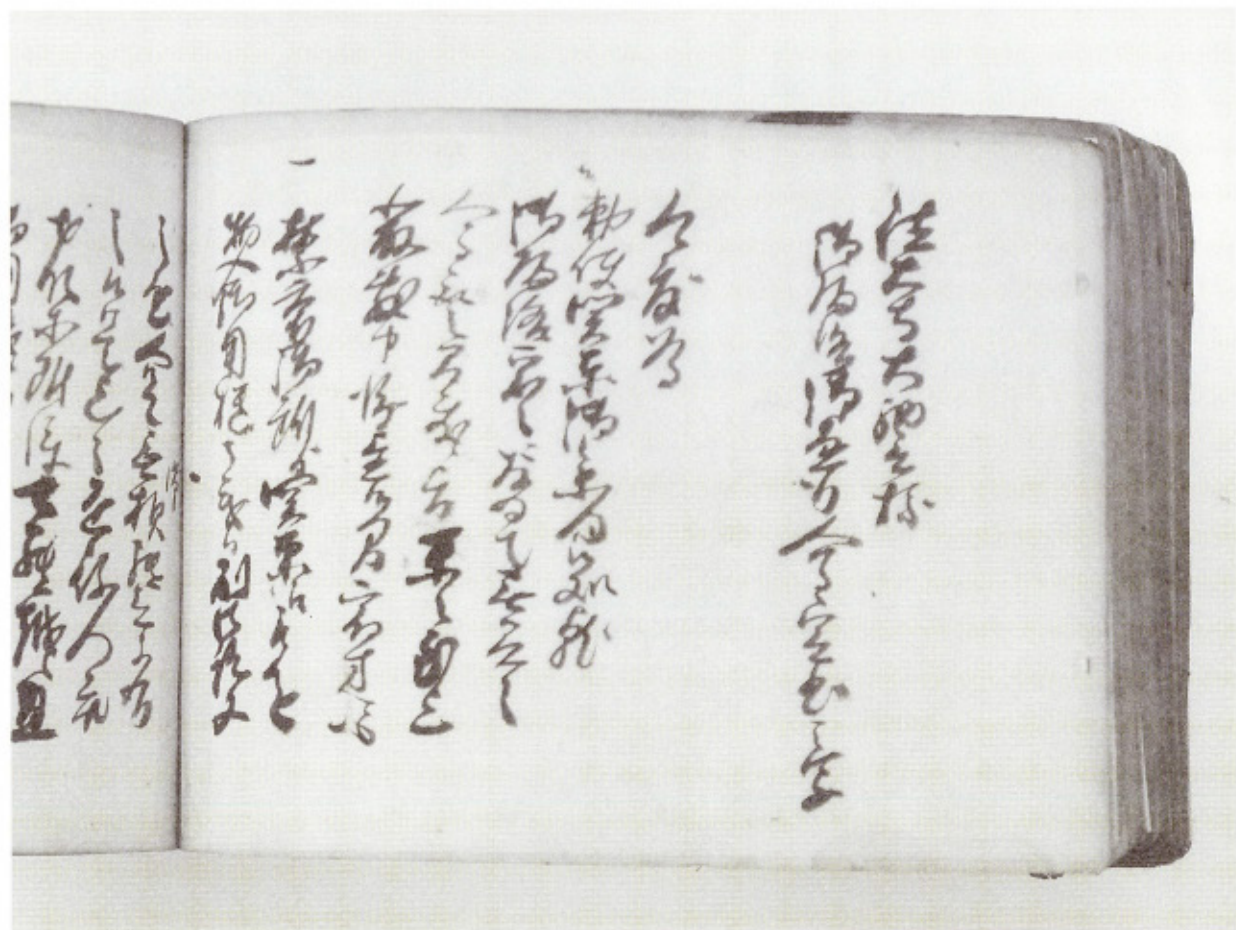
中山道

板橋宿より

大津宿迄

右宿々 役人中

追而明二日、板橋宿泊、其余ハ公家衆御休泊割之通相心得上下四人合宿之積、旅宿老軒用意可有之候、尤御定之木錢米代所相場を以相払候間、一汁一菜之事、馳走ヶ間敷義決而いたす間敷候、以上



徳大寺大納言様

御帰路御通行人馬定書之写

今度為 勅使関東御参向候処、就 御帰路宿々ニおゐて無覚之人馬取之間敷候旨、末々至迄嚴敷申渡置候間、宿方ニも禁裏御所より関東江被進物入御用慥之義ハ、則御証文之通人足無滞様繼立に有之候、是迄之通役人衆才領等附添可罷越候、且御用櫃御提ちようらん燈入用之時刻、人足無滞滞可差出候之事

一 御朱印人足 拾七人

一同 馬 拾四人電

一 御証文人足 貳百八拾人

一同 馬 六疋

合

一 御口書筆筒 老棹

右人足四人

一同御台持 老人

一 御装束櫃 老棹

右人足四人

一 御納戸長持 三棹

右人足

一 御長持

拾三棹

右人足 外桶川宿より増小長持壹棹

一御台所長持 貳棹
右人足

一御箱手代り 貳人

一御笠手代 壹人

一御輿添人足 四人

一御台持 壹人

一御役所筆筒 壹棹

右人足貳人

一御茶弁当持 壹人

一御両掛持 九人

一御桐口駕籠持 壹人

一蠟燭箱持 壹人

一合羽駕籠 拾一荷

右人足拾壹人

一竹写 四荷

右人足四人

一御提灯長持 壹棹

右人足貳人

一御提灯駕籠 壹人

一御提灯持 拾壹人

右夜ニ入候節取之

一御目付方両掛 一荷

右人足壹人

一御家中乗物 五挺

右人足貳拾人

一同駕籠 拾壹挺

右人足三拾三人

一同両掛 貳拾壹荷

右人足貳拾壹人

一四ツ手駕 拾挺

右人足貳拾人

一宿駕籠

右人足

但鑑札通

一本馬六疋

三職人衆江上下

一同貳疋

一人足拾四人

合人足

馬

徳大寺殿御内

巳十月朔日

山口隼人

村井中務

村岡右門

覚

徳大寺殿馬下

御冠師 木村雲介

御烏帽子師 杉本美作介

御末広師 岡村豊介

右米月三日当地発足ニ付為心得申達候也

巳九月 徳大寺大納言殿

山口隼人

從板橋至大津宿々問屋・□□中

勅使徳大寺殿来三日当地御発駕ニ付、御宿割別紙之通候間、於其宿々御本陣へ相達無滞様可有用意者也

徳大寺大納言殿

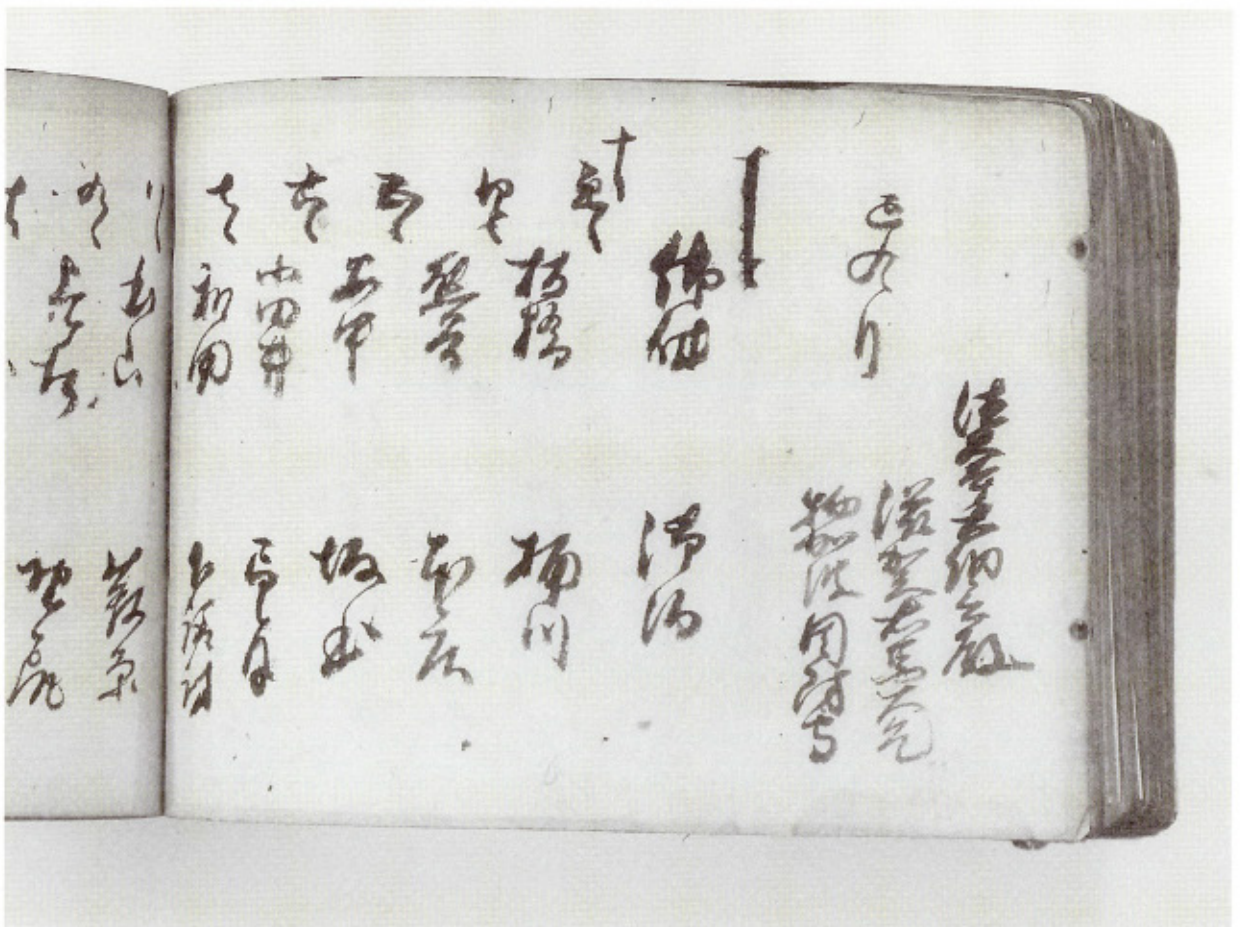
巳九月

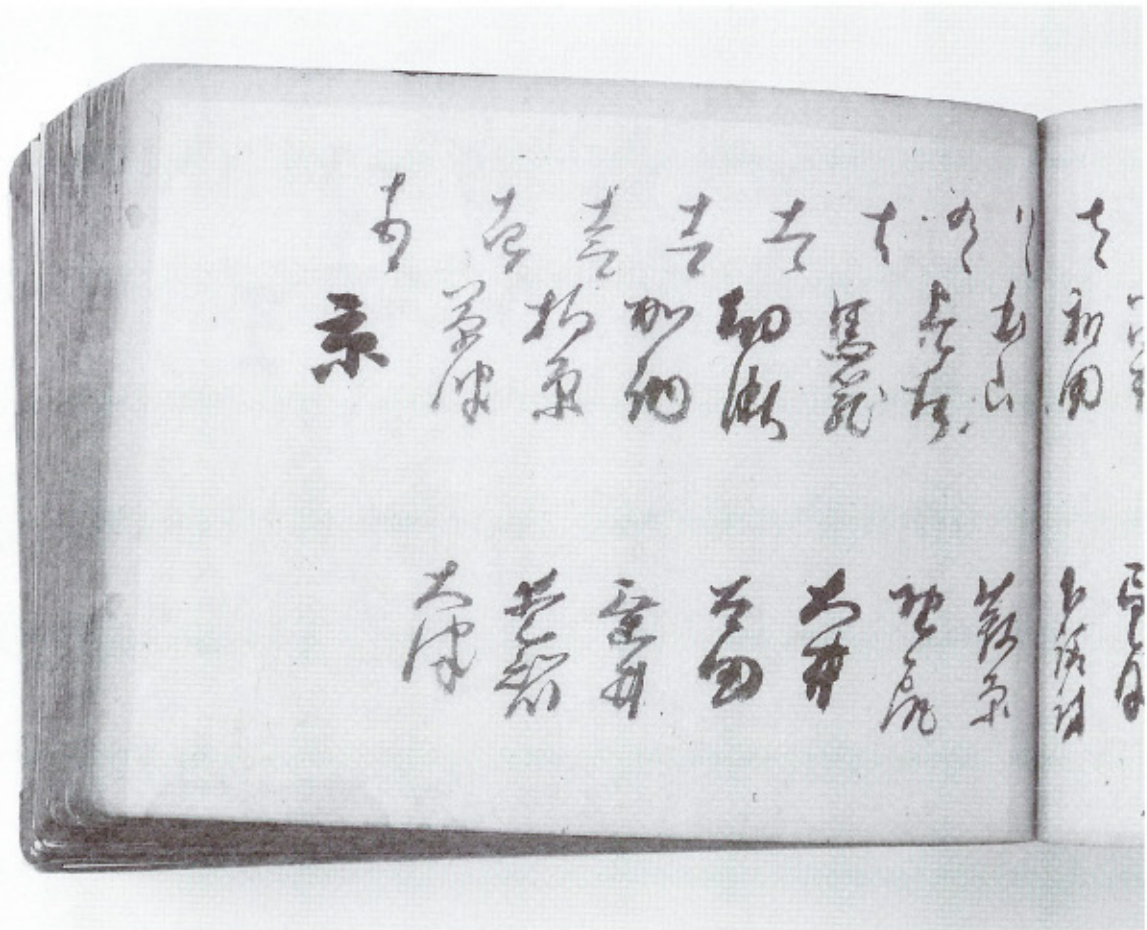
滋賀右馬大允

物加波周防守

御休

御泊





一馬	同	御証文宿次	一人足	一馬	同	御朱印	一人足	十月三日	板橋	桶川
六疋			式百八拾人	拾四疋		覚	拾七人	四日	熊谷	本庄
								五日	安中	坂本
								六日	小田井	望月
								七日	和田	下諏訪
								八日	本山	藪原
								九日	上ヶ松	野尻
								十日	馬籠	大井
								十一日	細湫 <small>(冬)</small>	太田
								十二日	加納	垂井
								十三日	柏原	愛知川
								十四日	草津	大津
								十五日	京	

右 德大寺大納言殿

右者 勅使德大寺大納言様

御参向候間、来三日当地御免駕御帰路候間、宿々人馬無滞様用意有之、船・川渡之所々無遅滞可有配慮、仍而此候也

德大寺大納言殿内

巳十月

滋加右馬大允

物加波周防守

右之通十月十日午上刻太田より請取即刻加納へ継送申候

御口書筆筒

老棹四人

御台持

老一人

御装束櫃

四人

三番 長持

老棹

此人足式人

四番 同

老棹

此人足式人

五番 同

老棹

此人足拾人

六番 同

老棹

此人足拾老人

七番 同

老棹

此人足式人

八番

老棹

此人足式人

前日 同

老棹

此人足三人

九番 同

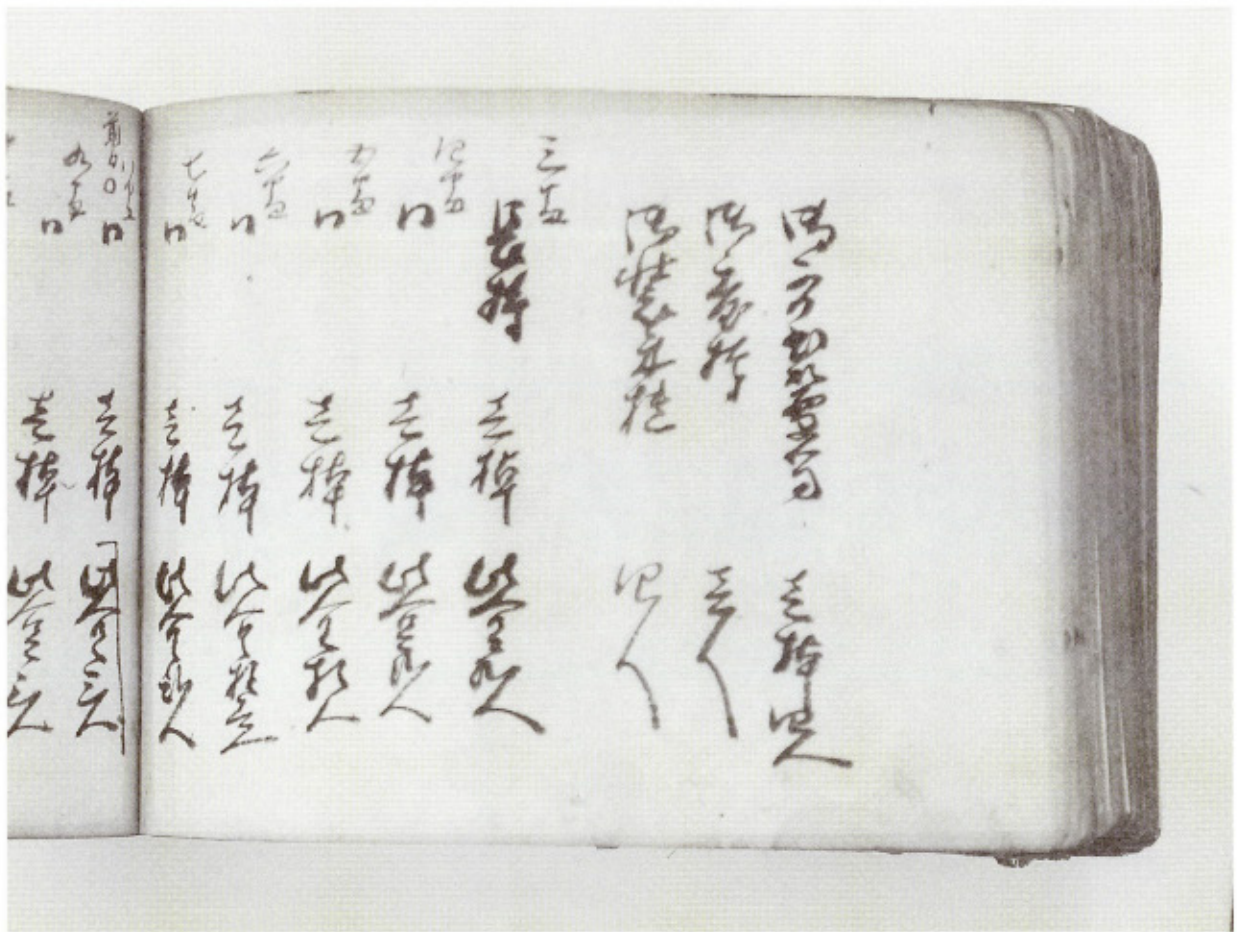
老棹

此人足三人

十番 同

老棹

此人足四人



十一番

前日 同

壹棹

〔合也〕此人足五人

十二番 同

壹棹

此人足三人

十三番 同

壹棹

此人足四人

十四番 同

壹棹

此人足四人

十五番 同

壹棹

此人足式人

十六番 同

壹棹

此人足三人

十七番 同

壹棹

此人足四人

十八番 長持

壹棹

此人足三人

十九番 同

壹棹

此人足三人

廿番 同

壹棹

此人足三人

廿一番 同

壹棹

此人足三人

廿二番 同

壹棹

此人足四人

廿三番 同

壹棹

此人足四人

廿四番 同

壹棹

此人足四人

廿五番 同

壹棹

此人足四人

御替輿壹挺

御箱手代り

御傘手代り

役所筆筒壹棹

御置□壹荷

兩掛 式荷

此人足式人

此人足壹人

此人足式人

此人足壹人

此人足壹人

此人足式人

此人足四人

此人足四人

此人足四人

此人足四人

此人足三人

此人足三人

此人足三人

此人足三人

此人足四人

此人足三人

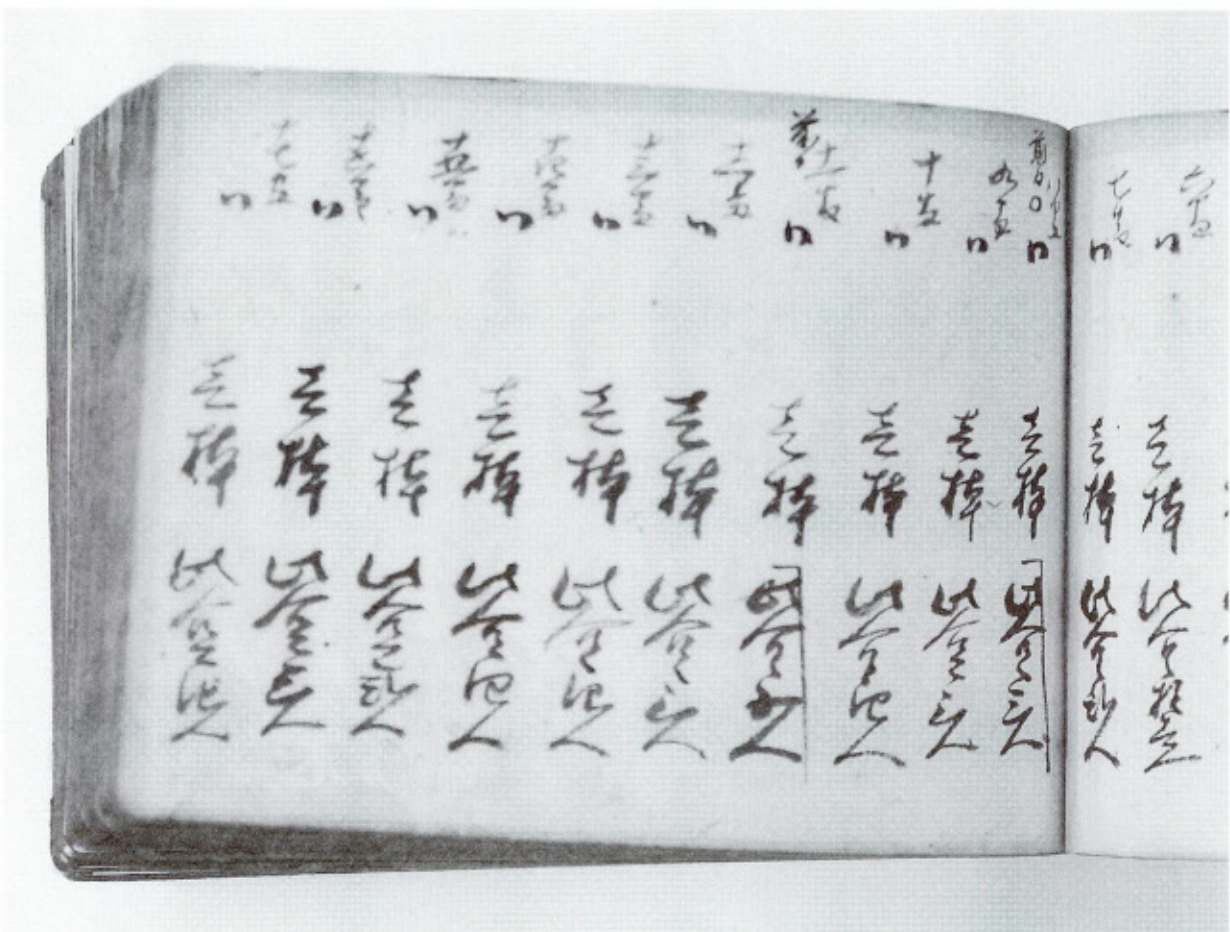
此人足三人

此人足四人

此人足四人

此人足式人

此人足三人



桐油籠壹荷 此人足壹人

蠟燭箱壹荷 此人足壹人

合羽籠拾壹荷 此人足拾壹人

竹馬 四荷 此人足四人

御茶箱壹荷 此人足壹人

包切長持壹棹 此人足三人

琉球包兩掛壹包 此人足壹人

提灯笼壹荷 此人足壹人

御目付方兩掛壹荷 此人足壹人

山乗物 五挺 此人足貳拾三人

引戸籠拾壹挺 此人足三拾三人

あをり籠拾挺 此人足貳拾人

此兩掛貳拾壹荷 此人足貳拾壹人

宿駕籠拾六挺 此人足三拾貳人

馬六疋

人足貳百六拾貳人

此訳

御朱印 合 人足貳百九拾七人

御証文 馬 貳拾疋

此内 人足拾四人

馬 貳疋 三職衆へ

差引 人足貳拾壹人

馬 拾貳疋

外二杖弘貳人差出申候

別御証文 御用櫃五棹 此人足貳拾人

此添 人足貳拾人

先弘 貳人

燈挑籠

竹口 壹人

三職衆へ 山乗物三挺 此人足拾貳人

兩掛 三荷 此人足三人

馬 壹疋

人足拾五人

馬 壹疋

一紙御証文之内

人足拾四疋

馬 貳疋

差引 壹人余

内壹疋人足貳人二代

右之通相違無御座候、以上

巳十月三日 板橋宿問屋 宇兵衛

年寄 市右衛門

道中御取締

御役人中様

覚

一松明 式百拾式丁

一蠟燭 大 百五十丁

一同 中 式百四拾八丁

一松割木四拾四束

袖下遣候分覚

一金壹分

長持宰領へ

一同式朱卜式百文

同断

一同式朱

台所同断

一同式朱

六尺拾式人

一五百文

料理間長持ち才領

一八百文

小頭

一式百文

道具手代り

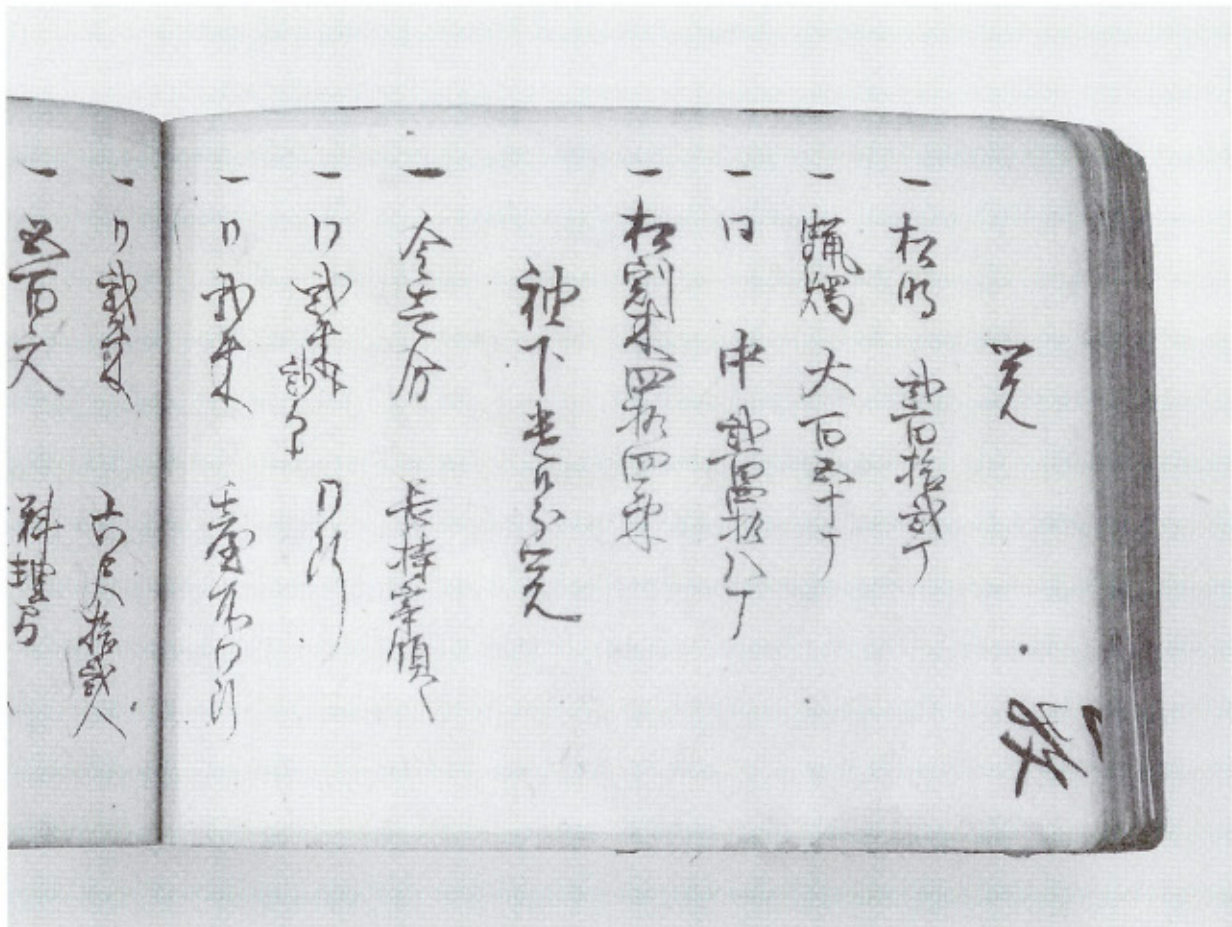
一金壹分

御普請役供へ

一五百文

御目付家来へ

外ニ壹貫計



一金壹分
一賃米壹人ニ付

当宿加役中酒代として

右ハ徳大寺大納言様御通行ニ付

一百六拾人計り

右ハ同断之節余り人足分

徳大寺大納言様御一緒御上り被成候御普請役横山信太郎様、十月廿二日御下り御通行節ニ、右者徳大寺様人馬繼立高書上申候面通左ニ写之

勅使徳大寺大納言様御帰路之節人馬繼立高書上帳

中山道 鶴沼宿

右表書

勅使徳大寺大納言御帰京ニ付

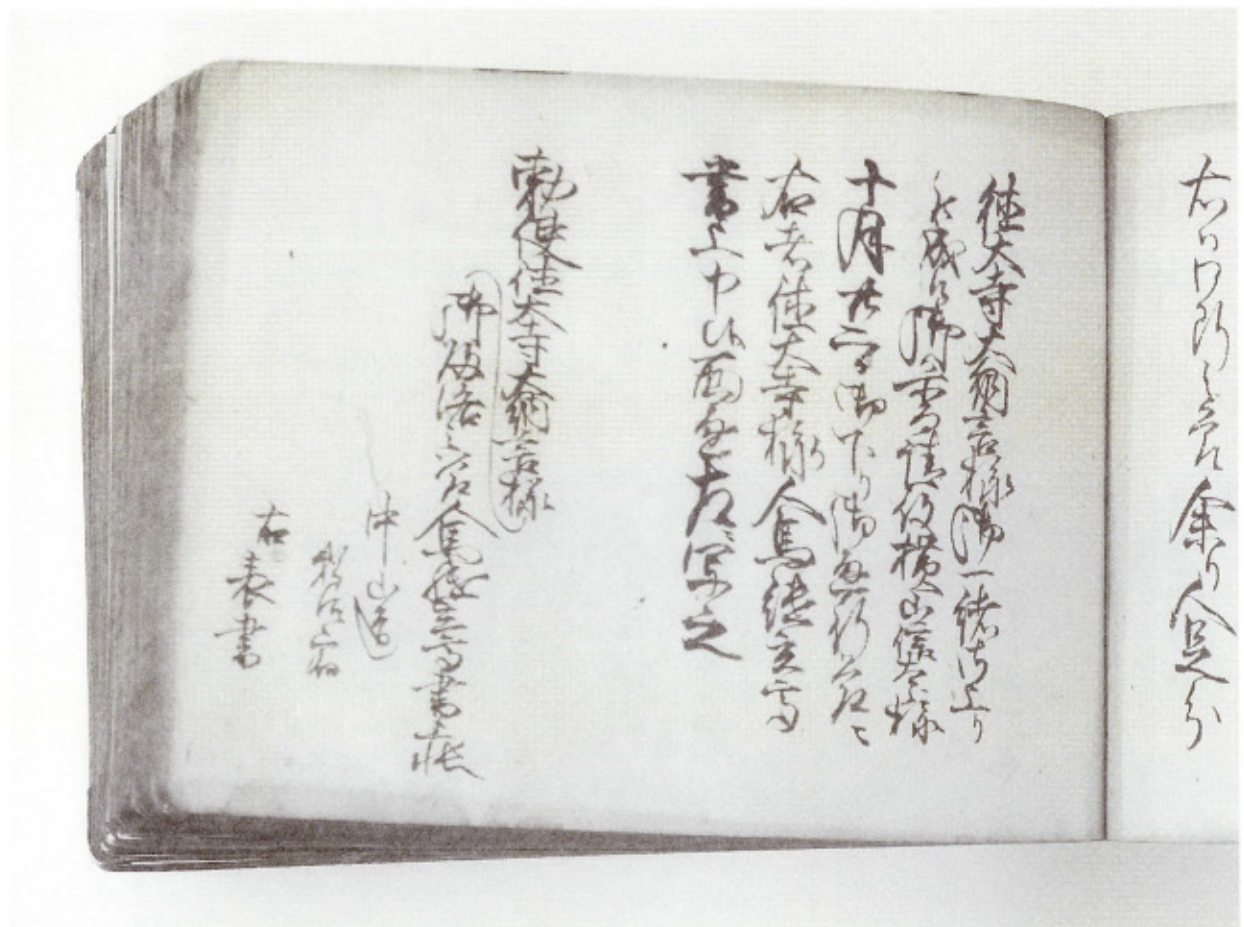
御朱印 人足三百拾七人

御証文人馬合 馬式拾疋内 三疋人足式拾六人ニ代

別御証文 小以人足三百四十三人

御繼立高合

人足三百式拾壹人内 宿人足廿五人・助合人足式百九十六人



馬六疋

宿馬

御朱印

御証文 人馬と差引

人足廿式人

馬 老疋 相減申候

外二

人足之儀ハ前宿至而早立ニ付、提灯持并往

来不馴人足之儀ニ付、御大切ニ奉存手

人足五百三拾三人 但代肩代且四里八丁遠丁場ニ付、其外添人足、

宿助合心得を以差添候分

馬六疋

馬之儀ハ遠丁場并夜中ニ付宿方以心得差

添候分

天保十二年

日野前大納言様御帰京ニ付

御朱印

人足三百五人

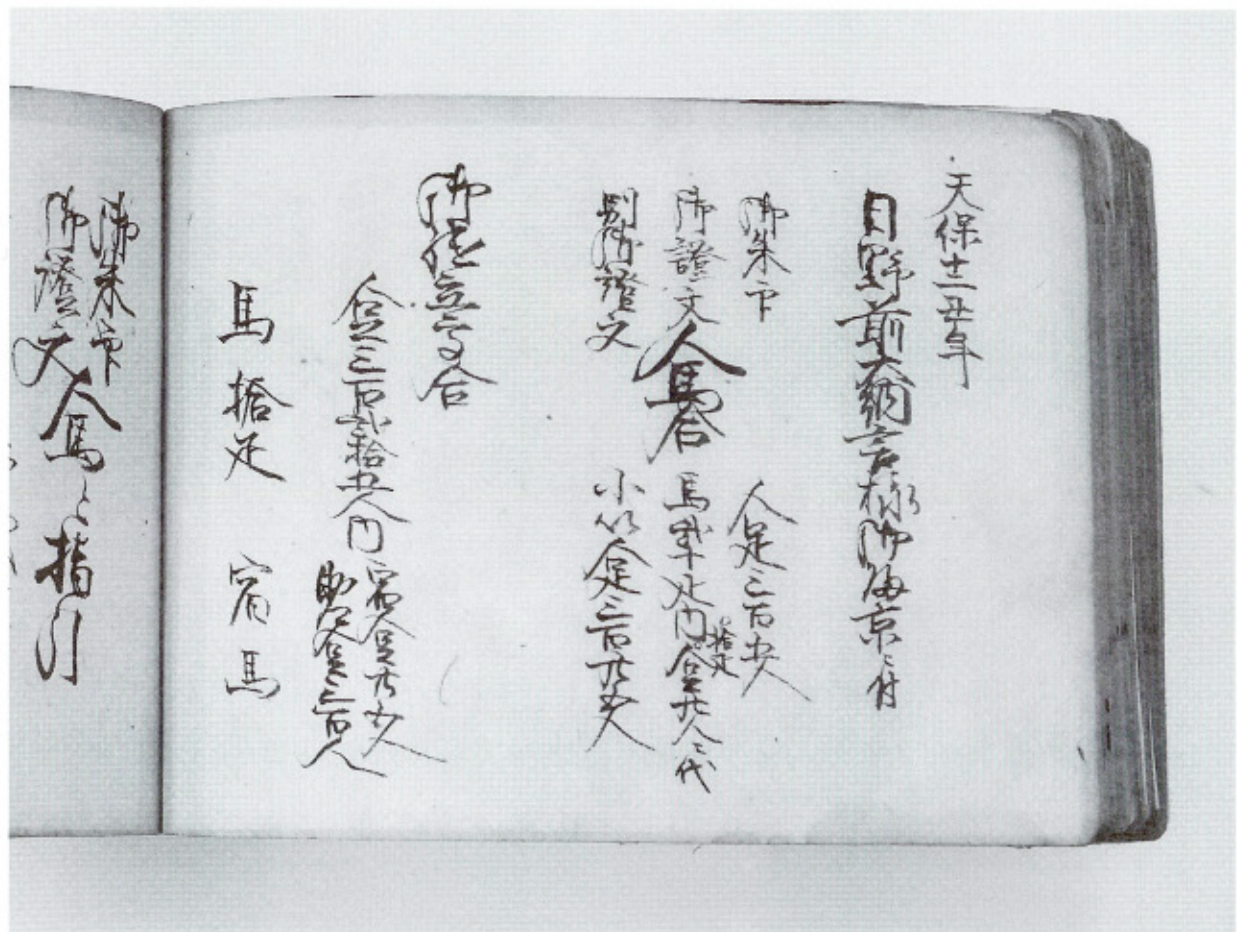
御証文 人馬合

馬式十疋内拾疋人足廿人ニ代

別御証文

小以人足三百廿五人

御繼立高合



人足三百式拾五人内 宿人足廿五人

助郷人足三百人

之以書付奉申上候、以上

尾州御領

美濃国各務郡中山道

鶺沼宿問屋

馬 拾疋 宿馬

弘化二巳

年寄

年十月

惣名前連印

御朱印 人馬と指引

御証文

増減無御座候

助郷惣代

外二

人足之儀ハ前宿至而御早立ニ付、提灯持

人足五百九拾九人但

并往来不馴人足之儀ニ付、御大切奉存手

代肩代り且四里八丁遠丁場ニ付、其外添

人足宿助郷心得を以差添候分

馬拾壹疋

馬之儀ハ遠丁場夜中ニ付宿方心得を以差

添候分

同断支配所

同国同郡須衛村

庄屋 又吉

此度御通輿高と差引

人足四人

馬 四疋 相減

尾州御領

尾張国丹羽郡橋爪村

庄屋 柳左衛門

右之通人馬繼立高相違無御座候、尤当宿御通行之節御家来末々之

御方迄、何ニ而も御非分成儀無御座候、繼立方之儀も責相立不申

相濟申候、外ニ可申立儀無御座、宿方助郷共一同難有奉存候、仍

金田式部知行所

美濃各務郡古市場村

庄屋 伊蔵

坪内嘉兵衛知行所

美濃国各務郡前渡村

庄屋 市右衛門

道中御取締

御役人中様

右之通御普請役様江書上有之候

弘化二巳年

一御勘定

原田敬右衛門様

河渡泊 鶴沼休

御上下七人

太田泊

御普請役

谷津孫一郎様

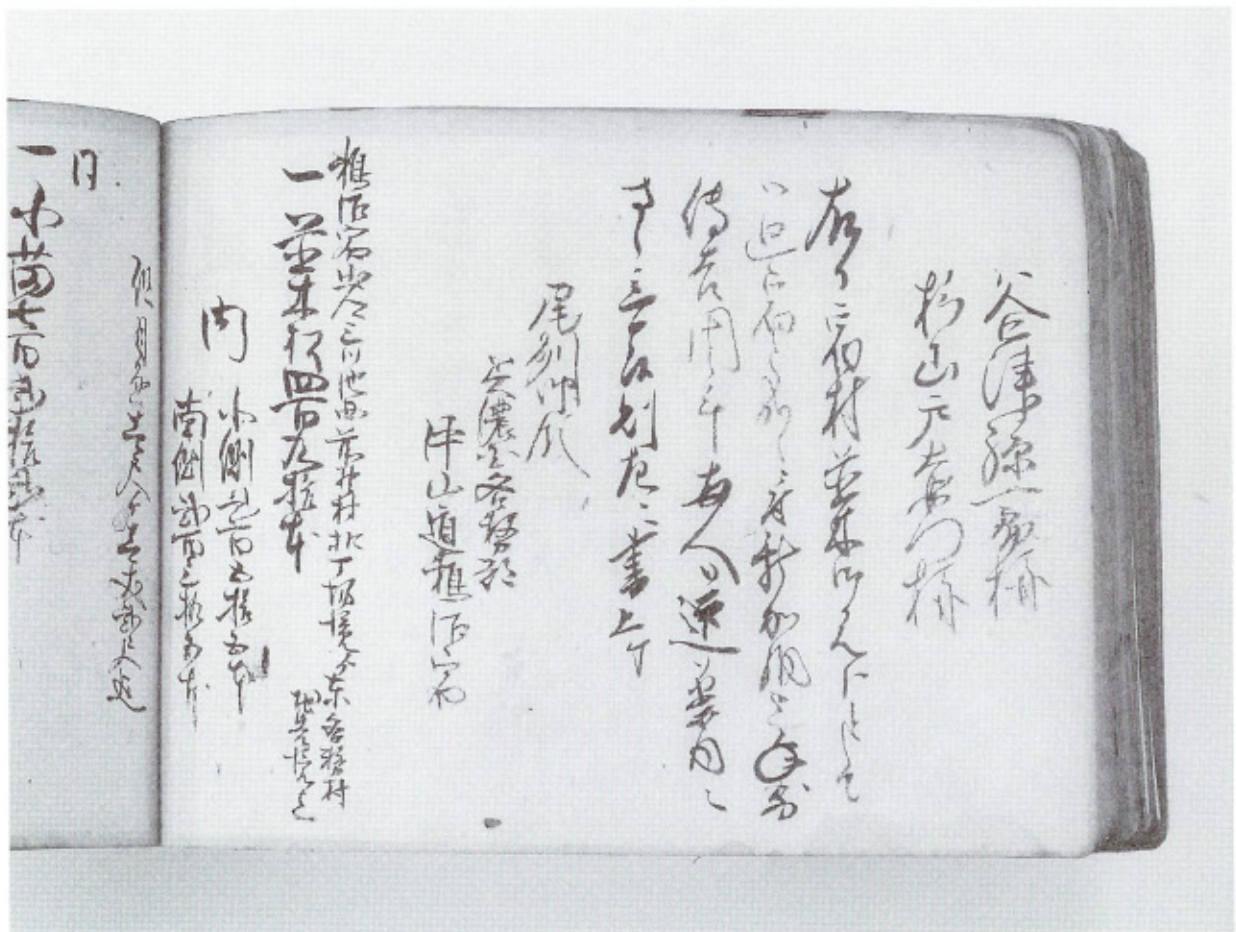
杉山戸右衛門様

右者宿村並木御見分として御廻宿被成候二付、新加納迄年寄伝吉・周平兩人御迎御案内ニさし立申候、則左ニ書上ケ

尾州御領

美濃国各務郡

中山道鶴沼宿



鶴沼宿出郷三ツ池西前野村控丁場境より東、各務村地先境迄

一並木松四百九拾本

内 北側貳百五拾五本

南側貳百三拾五本

但目通壹尺より壹丈貳尺迄

同

一小苗七百貳拾貳本

内 北側三百七拾貳本

南側三百五拾本

鶴沼宿西各務村地先境より宿西見附迄

一並木松三百七拾壹本

内 北側百八拾六本

南側百八拾五本

但目通壹尺より壹丈迄

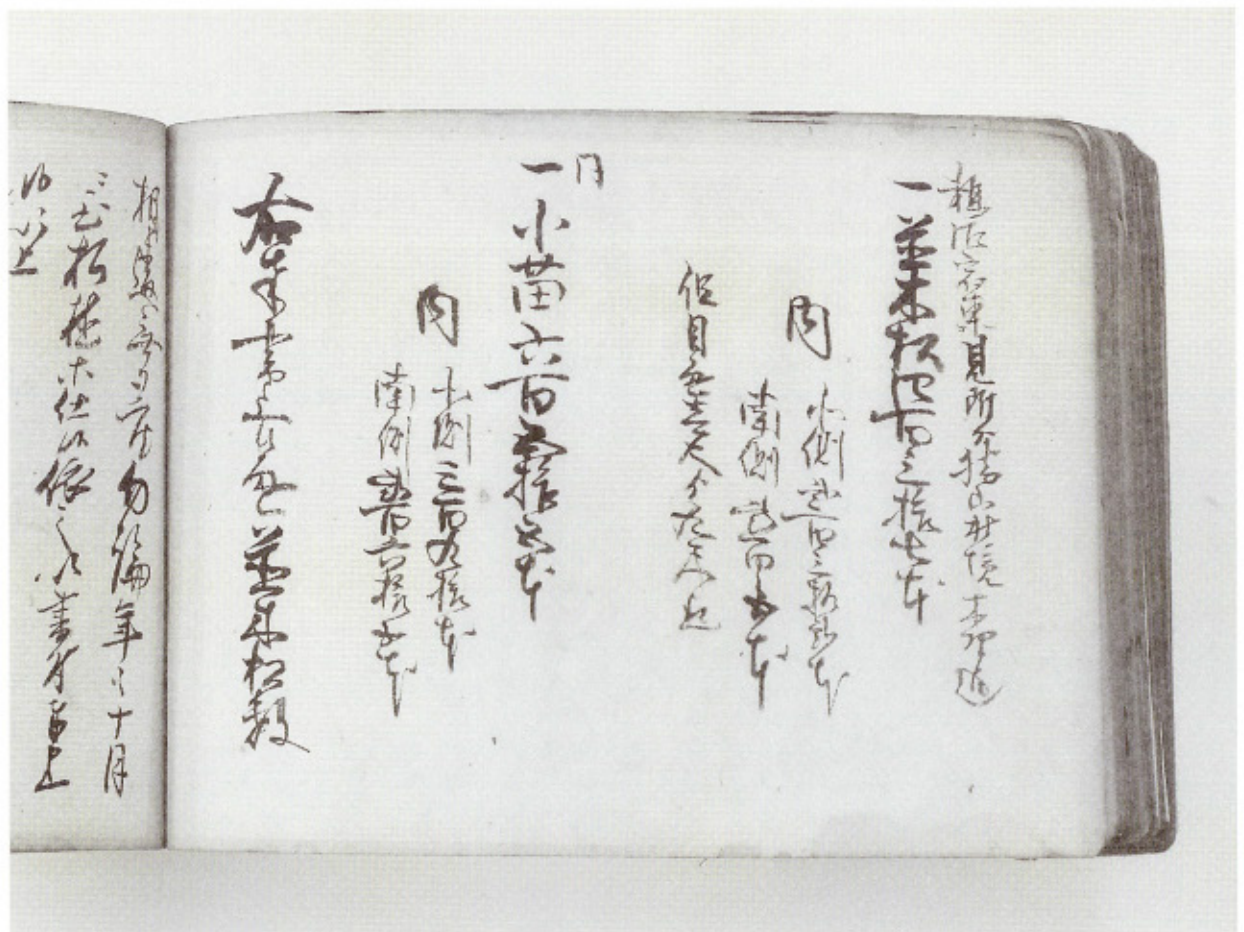
同

一小苗六百五本

内 北側貳百九十本

南側三百拾五本

鶴沼宿東見附より勝山村境木野迄



一並木松四百三拾七本

内 北側貳百三拾貳本

南側貳百五本

但目通老尺より九尺迄

同

一小苗六百五拾五本

内 北側三百九拾本

南側貳百六拾五本

右奉書上候通並木松数相違無御座、勿論年々十月ニ至松植等仕候、依之以書付奉申上候、以上

尾州御領

美濃国各務郡

中山道鶴沼宿

年寄 久吾

弘化二巳年十一月 同 米治郎

同 坂井銀右衛門

同 横山周平

問屋 野口貞兵衛

同 桜井吉兵衛

原田敬右衛門様

此書上ハ不用ニ相成申候、重而ハ用意ニハ不及候

右之通十一月朔日鶴沼御通行ニ付、如此取計申候、以上

一木錢六拾五文 但シ 上老入十七文

下六人四十八文

一米三升七合五勺 御上下七人 老入ニ付貳合五勺

代貳百十八文

外ニ百文茶代

弘化三年 御約束之覚

四月廿八日江戸御出立

五月九日当所御小休

一松平越前守様 御登り

右役人

二月廿五日御泊 松原善太郎様

弘化三年三月十四日

城州八幡 十三日 大井泊

一田中殿 十四日 鶴沼泊

御目録

御上老入 三百文払

御次三人 六百文払

老人ニ付式百文ツ、

下七人 壹貫五拾文払

老人ニ付百四拾八文

ノ上下拾老人

右者城州八幡正一山々之惣代江戸表江御年頭として被入候、御
かゝり之節

一御用長持 壹棹

一御駕籠 式丁

一并両掛合羽駕籠 廿

一駄荷式疋

ノ人足 拾式人

馬 式疋

右者此御方之衆中者皿付御平共玉子一切御あがり不申上候

覚御先触

精進

一壹汁三菜 上通り 三人前

外ニ香之物

不及精進

一壹汁式菜 中通り 拾四人前

同

一壹汁香之物 下廻り 七人前

休泊り共御本陣ニ而

泊り割り

廿八日 廿九日 廿九日

御嶽 鶴沼 加納

御泊 御昼 御泊

紀州御女中

才領 石倉元助様

三月廿七日

紀州御弘方

小嶋丈右衛門

三輪五左衛門

右御先触之通り御支度被遊候、但シ外ニ御六尺拾式人計相増し候
事

女中様御弘旅籠之事

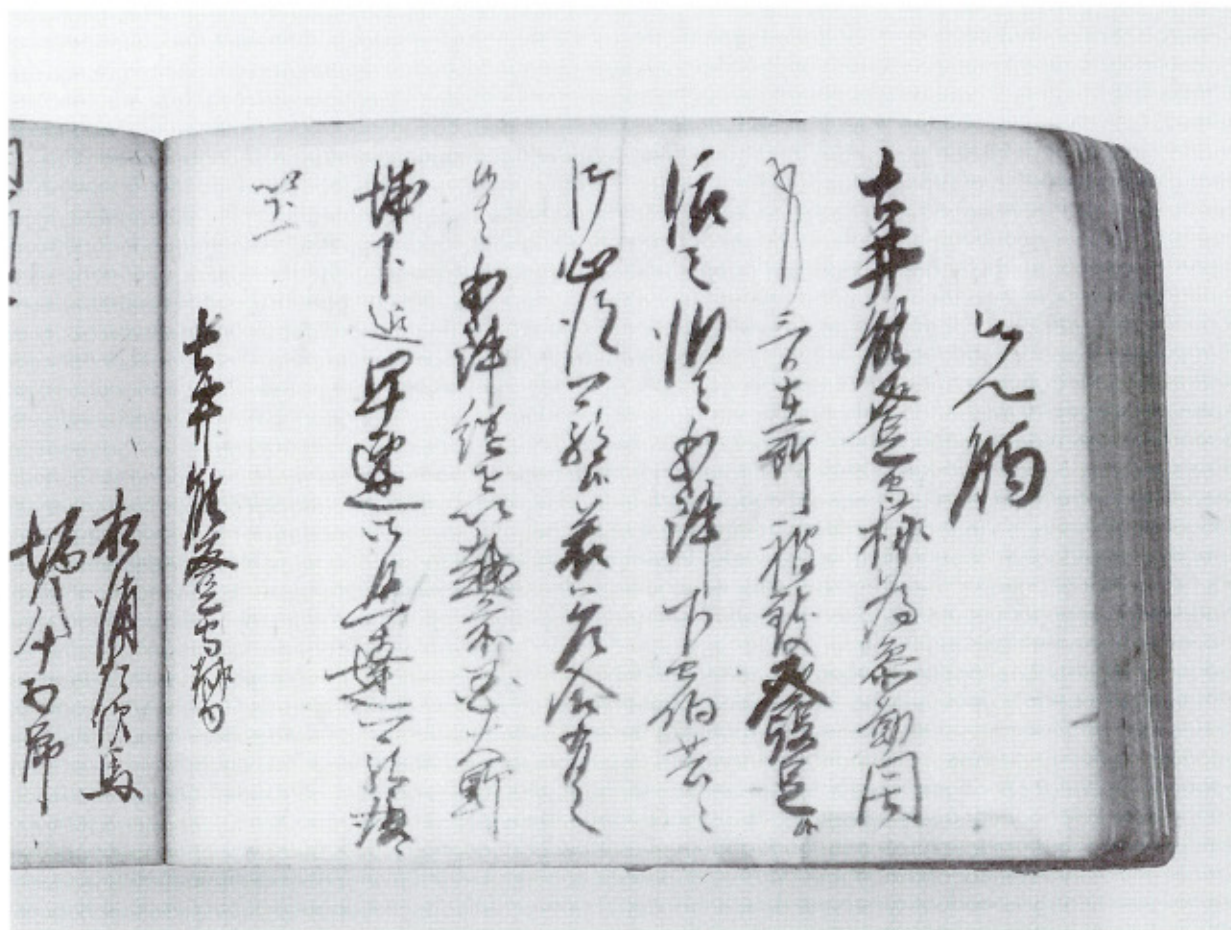
上老人ニ付 百八拾文ツ、 三人様

中通り 老人ニ付 百式拾文ツ、 拾四人払

下通り 老人ニ付 百文ツ、 七人払

一金式朱也 御茶代

ノ上下共廿四人様



右之通り相勤申候、以上
外二

菓子少々御献上仕候処、御献上料として手細工物少々頂戴仕候

先觸

土井能登守様為參勤閏五月三日在所被致発足候、依之泊者本陣、
下宿共二御心得可給候、若差合有之候者本陣繼を以越前国大野城
下迄早速御通達可給候、以上

土井能登守様内

松浦左次馬

堀八十五郎

閏五月三日 四日 五日

清水 今庄 木本

六日 垂井 七日 鶴沼 八日 大久手

九日 妻籠 十日 福嶋 十一日 洗馬

十二日 和田 十三日 軽井沢 十四日 新町

十五日 鴻巣 十六日 蕨

猶々先例之通宿割之者遣シ申間敷候、追而馬割之者遣候節宿割帳
面下札并下宿札共ニ可差越候、宿割帳面之通下宿共ニ御割置可給
候、此段為念先達申達置候、以上

右之通四月十二日九ツ時加納より御口早く書面之 有之

一人足式拾五人 一本馬式拾五疋

右ハ細川豊前守在所江之御暇被蒙仰候得共、来ル廿一日より廿七日迄之内江戸表被致致駕候等ニ而、頃日先触仕出置候、□泊宿致相違候而尚又左之通泊ニ而被致旅行候□、其節本陣下宿繼人馬等差支不申候様頼入候、尚定日ハ追而可申入候、此先触印形被相用早々御順達可給願存候、以上

細川豊前守内

津島金助

芦田甚兵衛

河島市左右衛門

四月六日

板橋 蕨 浦和 泊 大宮

上尾 桶川 鴻巣 泊 熊谷

深谷 本庄 新町 泊 倉ヶ野

高崎 板鼻 安中 松井田

泊 坂本 泊 望月 泊 下諏訪

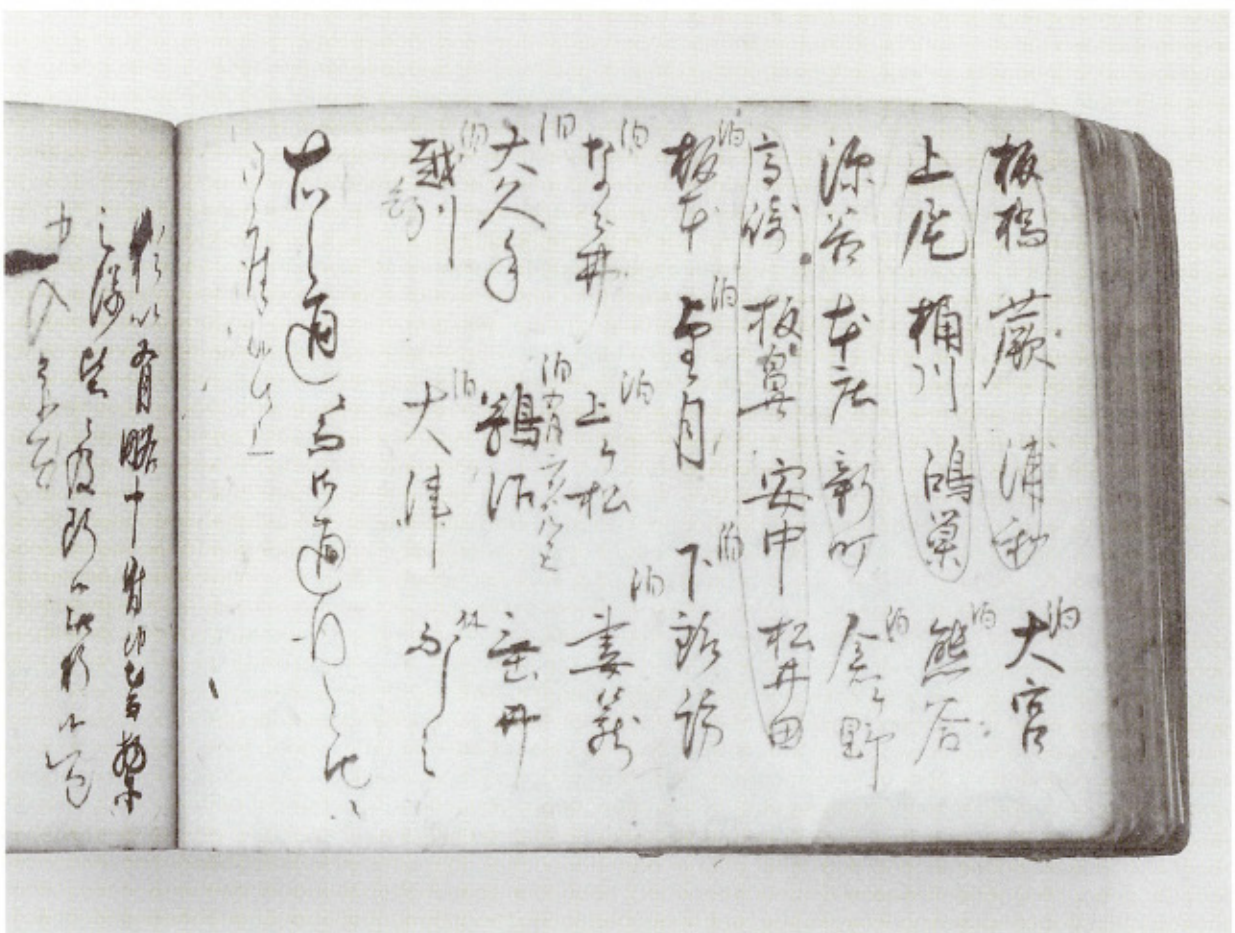
泊 なら井 泊 上ヶ松 泊 妻籠

泊 大久手 泊 五月二日より八日迄 鶴沼 垂井

泊 越知川 泊 大津 泊 ふしミ

右之通ニ而通行之由ニ御座候、以上

猶以有略申付候旨、物等之儀皆ニ及断候、此□候通申入參候、以上



以廻状申入候、しかれハ甲斐守為在邑五月十三日江戸発駕、木曾路旅行之日限、其宿々被致止宿候、万一差支之儀有之候ハ、脇本陣又ハ相応之場所、夫より手配等被申付可給候、猶旅籠其外委細之儀者宿割之者江申含差出候間、其節宜預御相对候、以上

京極甲斐守内

竹嶋総太夫

竹嶋又左衛門

四月廿五日

五月十三日十四日十五日 十四日十五日十五日

桶川

本庄

十五日十六日十七日 十六日十七日十八日

安中

追分

十七日十八日十九日 十八日十九日廿日

和田

洗馬

十九日廿日廿一日 廿日廿一日廿二日

福嶋

御嶽

廿一日廿二日廿三日 廿二日廿三日廿四日

大久手

鶴沼

廿三日廿四日廿五日 廿四日廿六日廿七日

垂井

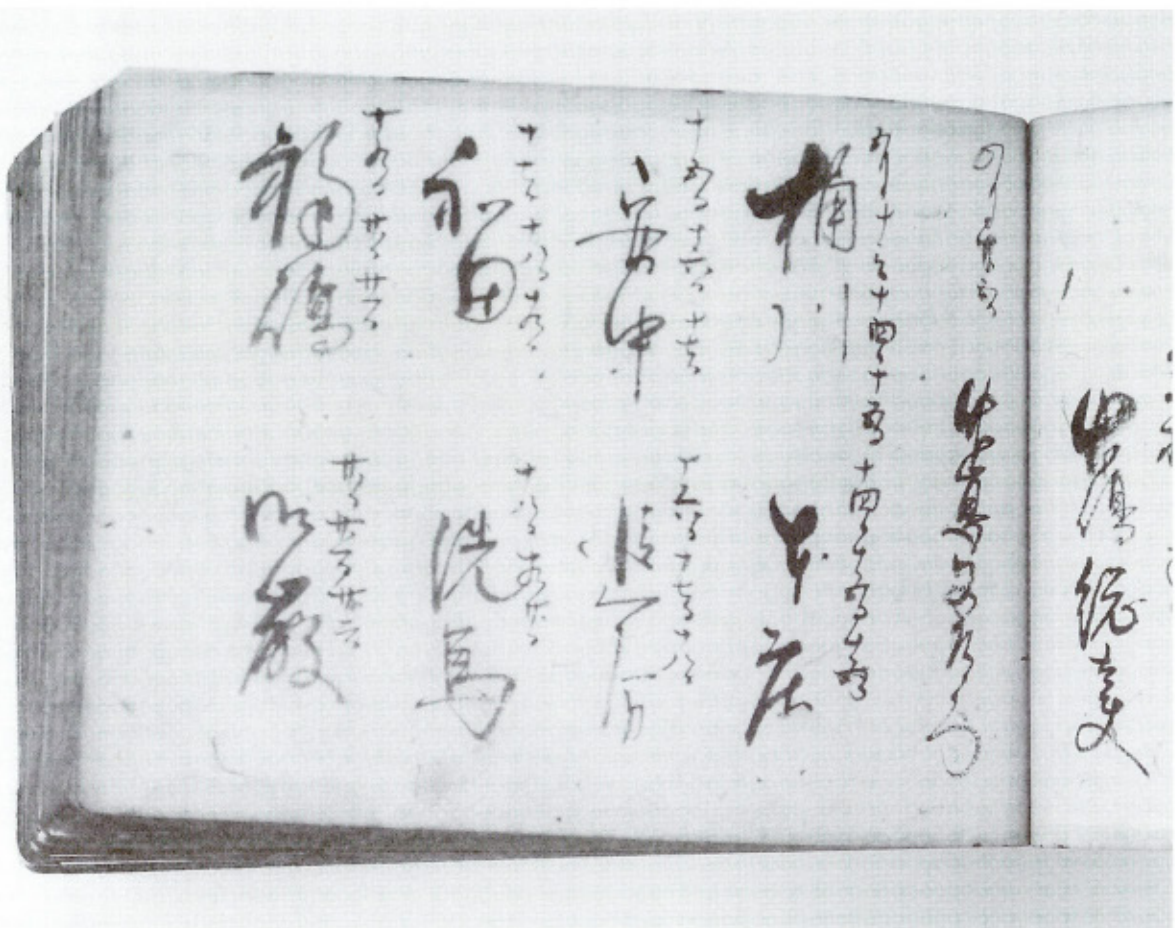
愛知川

廿六日廿七日廿八日

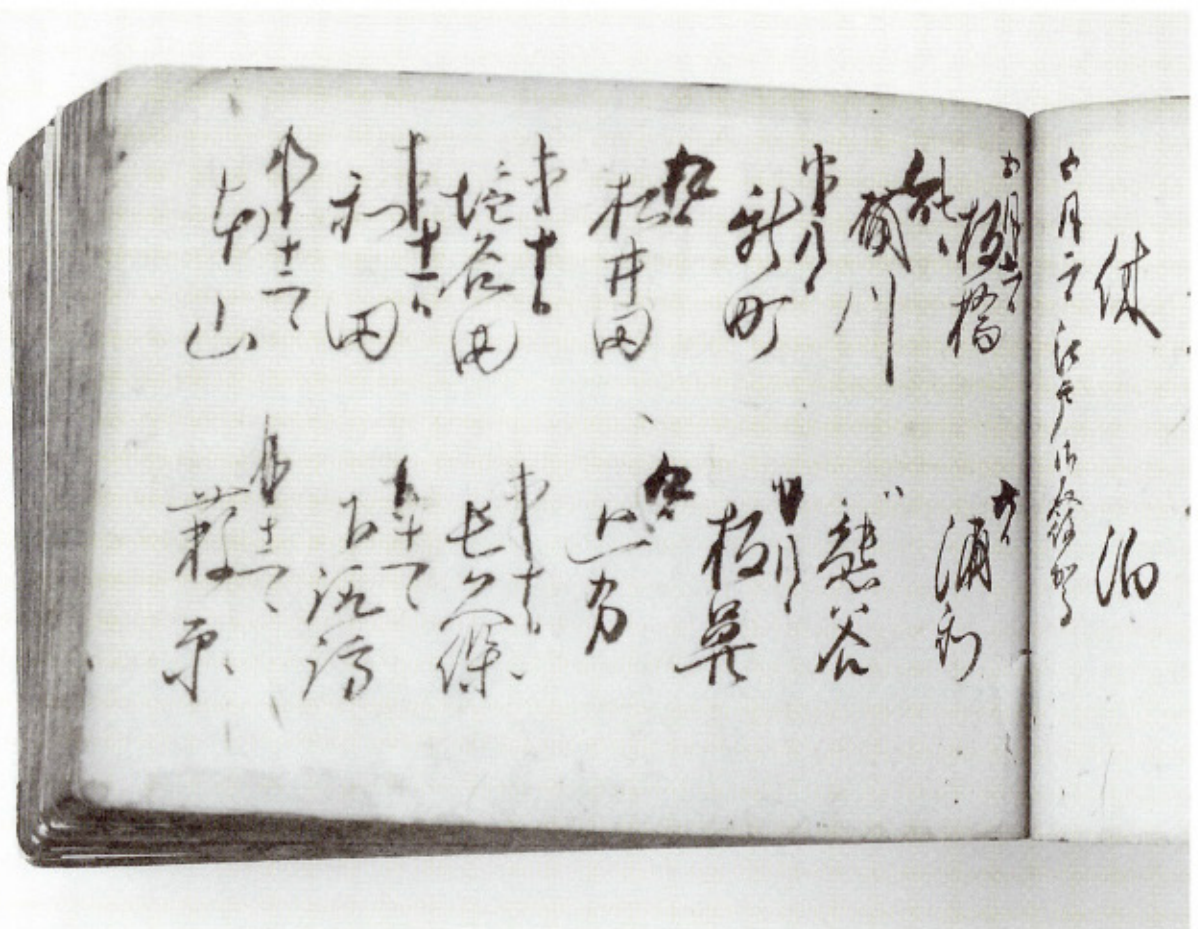
大津

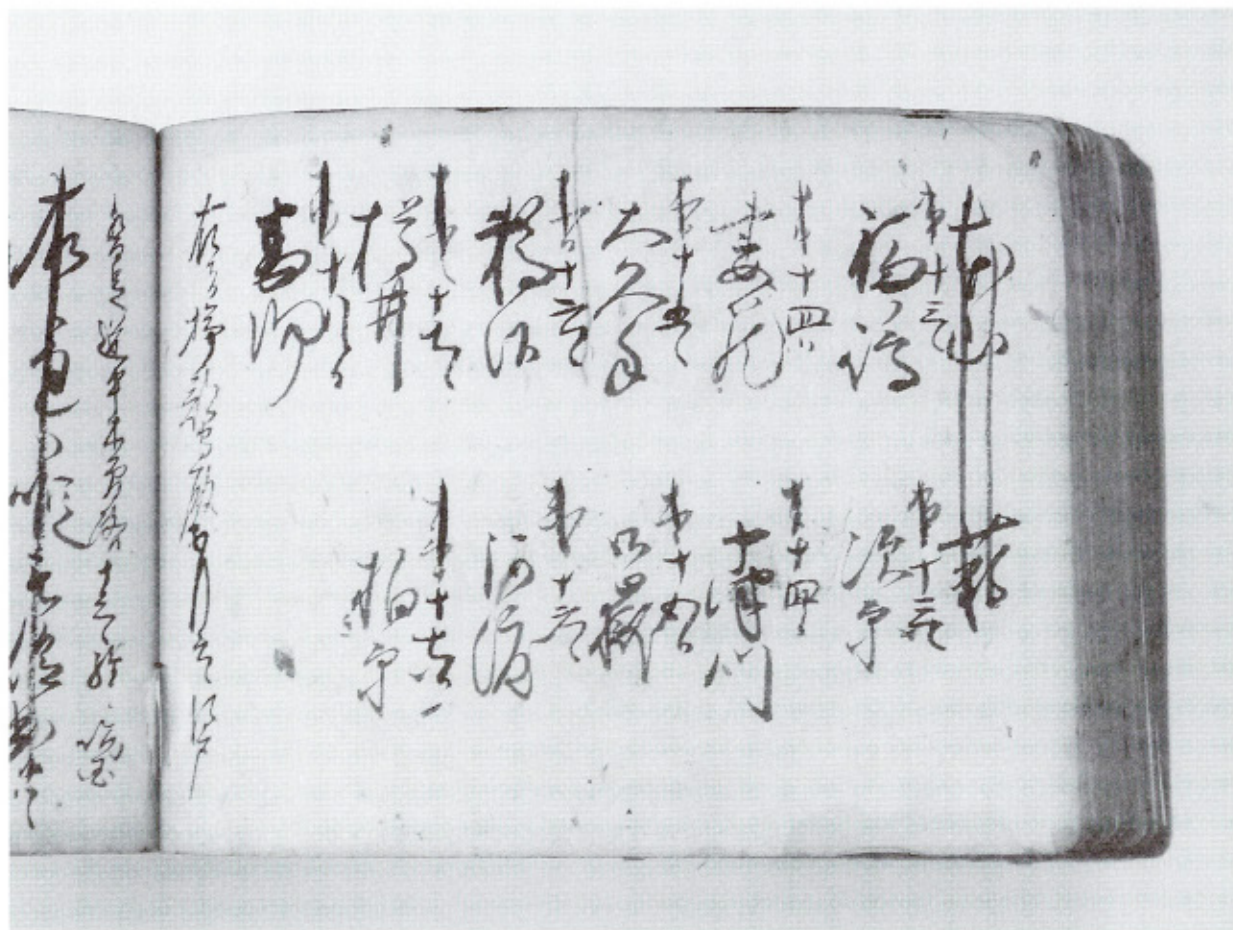
一井伊掃部頭様

御休泊



五月二日	江戸御発駕	休	泊
五月六日	六日	板橋	浦和
七日	同	桶川	熊谷
八日	八日	新町	板鼻
九日	九日	松井田	追分
十日	十日	塩名田	長久保
十一日	十一日	和田	下諏訪
十二日	十二日	本山	藪原
十三日	十三日	福嶋	須原
十四日	十四日	妻籠	中津川
十五日	十五日	大久手	御嶽
十六日	十六日	鶴沼	河渡





十七日 十七日

樽井 柏原

十八日

番場

右者掃部頭殿五月六日江戸発駕、道中木曾路十三日□□帰国
右之通御順被仰出候个、右宿割を以御通行之由飛脚番より被仰渡
候

一細川豊前守様 御泊り

四月廿七日江戸御発駕

四月廿八日 熊谷 廿九日 倉ヶ野

五月朔日 坂本 二日 望月

三日 下諏訪 四日 なら井

五日 上ヶ松 六日 妻籠

七日 大久手 八日 鶴沼

九日 垂井 十日 越川

十一日 大津

右御触参候、以上

弘化三年午五月九日 大久手

一細川豊前守様 御泊 鶴沼

御在所肥後宇土郡宇土 垂井

高三千石

御宿入 壹両也

御旅籠代壹人ニ付 貳百二十八文

御札宿拾壹軒

油紙 七軒 百六拾四文ツ、

本陣入貳拾二人計

風呂場御取湯共三本

右之通り相勤申候、以上

同年五月十日

一福井少将様 御小休 太田

御目録 三百疋 赤坂

支度之儀ニ付六尺計貳拾人程支度被成候

御茶之間入不申候

右之通り相勤申候、以上

弘化三年午五月十日

一松平美濃守様 是ハ大黒田様筑州様共泊り

御家老

久野四兵衛様 大久手

御宿入百疋 鶴沼泊り

外ニ 五拾疋 御献上料

御本陣廿八人計

御馬共 本陣入

御旅籠之儀者上下共御壹人ニ付貳百四拾文ツ、

御上様御馬之儀者貳人払

御風呂之儀者御取湯共三本

右之通り無相違相勤申候、以上

弘化二年午四月十七日

一松平阿波守様 太田・赤坂

御小休

金貳分御宿入

御膳めし

拾六人計六尺、奥向者不残御旅籠

右之通り相勤申候、至而御早朝ニ相見へ申候

同日

大田

一井伊掃部頭様 御小休み 赤坂

御宿入貳百疋

御膳めし 拾貳人計

右者当宿御昼休之処、にはかニ太田宿御泊ニ相成、当宿御小休ニ

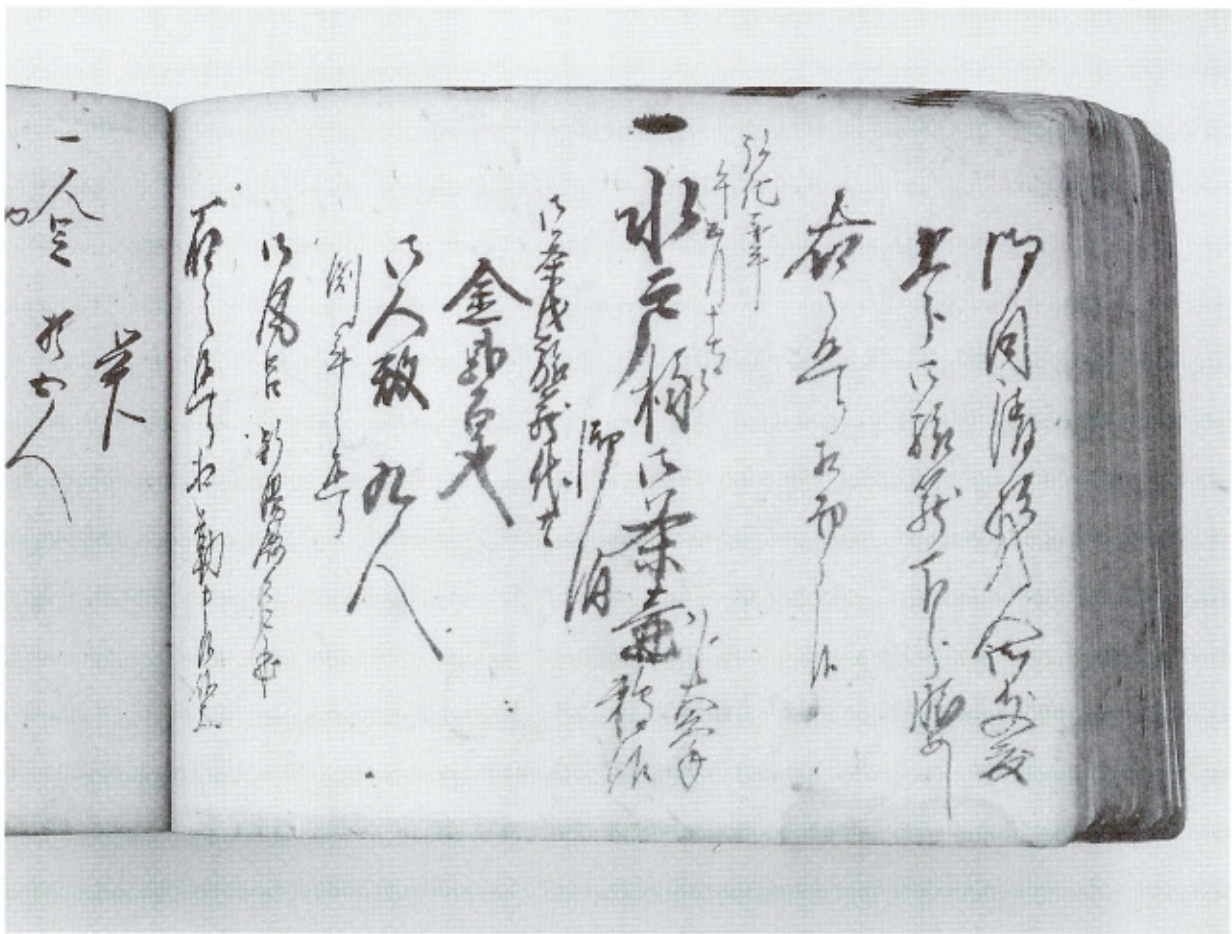
相成申候、以上

右相勤申候

同日

一同断

御女中御昼休



御宿入 式朱也

御同清拾八人御支度、上分御旅籠、下分膳めし
右之通り相勤申候

弘化三年午五月十七日

大久手

一水戸様御茶壺

鶴沼

御泊

御茶代旅籠代共 金貳百疋

御人数九人 例年之通り

御風呂 新湯殿壹本

右之通り相勤申候、以上

覚

一人足拾五人

内 引戸駕籠壹挺

垂駕籠六挺

一人足六人

但シ長持壹棹

外ニ四人宿駕籠用意

一馬八疋

右者甲斐守為在邑、来ル十三日江戸発駕、木曾路被致旅行候間、
宿々無遅滞被差出可給候付、此段申入候、以上

編集後記

ここに各務原市資料調査報告書第三十九号として、『旧中山道鶴沼宿本陣桜井家文書 VI』を刊行することができました。本報告書には、「桜井家文書」の中から、「本陣覚書 二」を、部分収録いたしました。「本陣覚書 二」は天保十三年（一八四二）から安政五年（一八五八）までの十七年間、桜井家の十代目岡右衛門・十一代目吉兵衛をはじめとして、何人かの人によって書き継がれていったものと思われまます。岡右衛門の特徴のある丸味を持ったくずし字や、きれいな文字、ダイナミックともいえる文字など、個性がにじみ出るような筆跡が見られます。六百丁を超える大部な史料のため、その四分の一ほど、天保十三年から弘化三年（一八四六）までの分を掲載してあります。

「本陣覚書 二」は、一より記事の年代が遡っています。これは既に史料整理をされている順に従って、歴史民俗資料館が資料調査報告書を刊行しているためです。

ところでこの「本陣覚書」は、覚書の体裁ながらその内容には興味深いものがあります。今回収録した中には、日光例幣使や水戸様の茶壺の通行の記事もあり、本陣（或いは宿場）の人々がおおいに気を遣っている様子が窺えます。本書を通じて、江戸時代末期の街道をめぐるさまざまな様相を感じて頂けることができると思います。この報告書が、皆様方の古文書や歴史の学習・研究に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、報告書の刊行にご理解を示してくださいました史料所有者の桜井美保子氏と、史料の解説にご尽力をいただきました岐阜女子大学文化創造学部の辻公子先生に深く感謝いたします。

平成二十八年三月

各務原市歴史民俗資料館

各務原市資料調査報告書第三十九号

旧中山道鵜沼宿本陣桜井家文書 VI

平成二十八年三月

編集 各務原市歴史民俗資料館

〒591-0333 岐阜県各務原市鵜沼西町一―一六―三

発行 各務原市

〒594-8555 岐阜県各務原市那加桜町一―六九

TEL 〇五八―三八三―一一―一代

印刷 山興印刷株式会社

各務原市図書館



114618309